

基地内文化財 9

普天間飛行場内試掘調査総括報告書

令和4(2022)年 3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は、平成 11 年度から平成 22 年度にかけて沖縄県と宜野湾市が実施した、アメリカ軍普天間飛行場内での試掘調査の成果を総括した報告書です。

普天間飛行場は、宜野湾市のほぼ中央に位置し、市の面積の約 25% にあたる 4,759 km² の広さがあります。飛行場は現在も稼動している米軍の基地であるため、試掘可能な範囲は、飛行場全体の約 3 分の 1 エリアに限られていますが、試掘坑の総数は 1,850 か所にのぼります。その成果については、沖縄県と宜野湾市が発行してきた 8 冊の発掘調査報告書にまとめられています。試掘調査がいったん終了した現在は、遺跡の詳細な範囲や内容を調べるための確認調査を実施しております。

本報告書では、これら試掘調査の成果について 1 冊にまとめる際、沖縄県と宜野湾市で個別に使用していた層序名を統一した上で、試掘坑配置図や試掘調査一覧表を作成しました。また試掘調査一覧表には、可能な限り層序略図を追加することによって、理解を容易にするよう試みました。

本報告書に掲載した遺跡分布図については、平成 21 年度に沖縄県教育委員会と宜野湾市教育委員会が共同で発行した『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』を元に、その後の調査成果や再検討を加え、最新の情報となるように作成しました。

本報告書が、今後の発掘調査の優先順位や調査範囲、調査深度などを検討する際の基礎資料となることを願っています。また、普天間飛行場の返還を見越して各種の開発工事が計画されていく際に、文化財を保護しつつ、開発工事を円滑に進めていくための基礎資料となることを期待しています。さらに、地域の歴史を理解する際に、資料として活用していただければ幸いです。

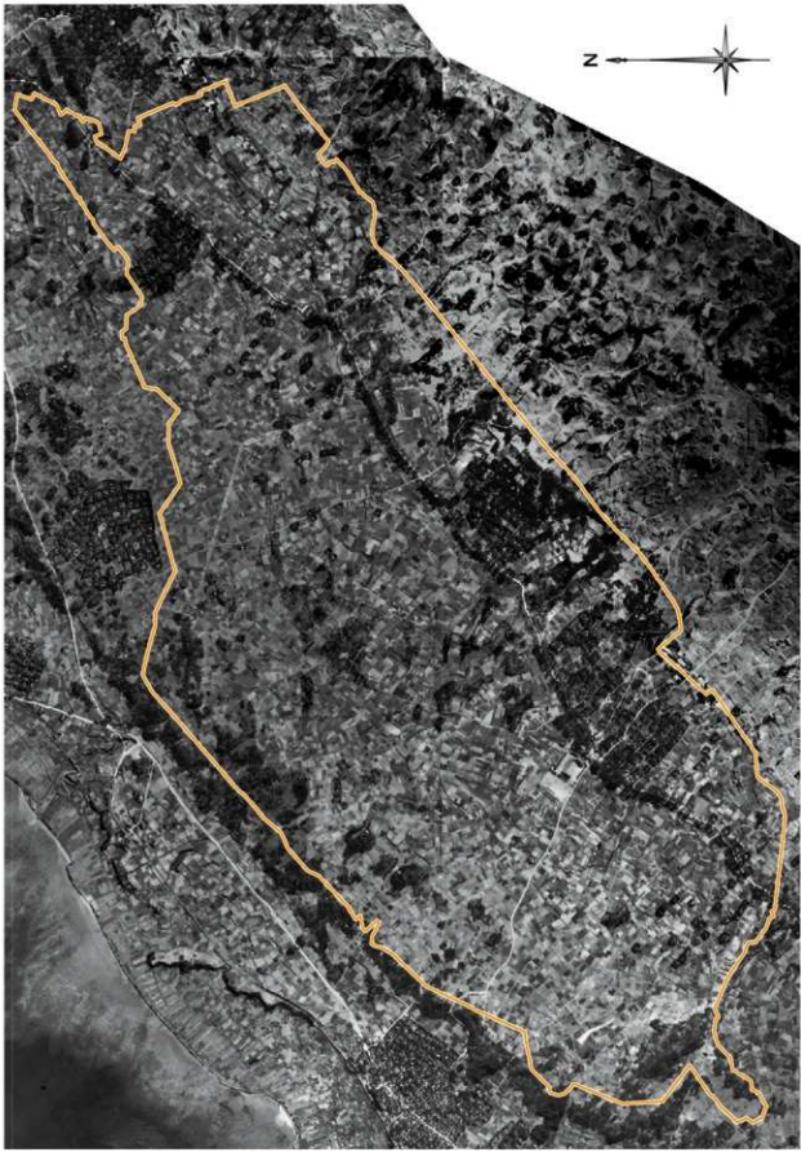
令和 4 （2022）年 3 月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長 瑞慶覧 勝利



巻頭図版 1 普天間飛行場の航空写真（令和2年撮影 宜野湾市税務課から提供）

0
500m
(S=1/17000)



卷頭図版 2 米軍撮影の航空写真（オルソ画像 宜野湾市文化課から提供）

0 500m
(S=1/17000)

例　言

- 1 本報告書は、平成 11～22 年度に沖縄県と宜野湾市が行った普天間飛行場内の試掘調査について、その成果を総括したものである。
- 2 普天間飛行場内の試掘調査は、文化庁より国庫補助を受けて実施している。
- 3 本報告書に使用した各種のデータは、沖縄県・宜野湾市がこれまで発行してきた発掘調査報告書のデータを基本としている。総括を行う際に、試掘坑の座標値のチェックや、層序の統一、試掘調査一覧表の並べ替えや試掘情報の加筆修正などを行った。
- 4 本報告書は試掘調査に関する成果が主な内容となっているが、表面踏査・範囲確認調査・記録保存調査等についても触れている。
- 5 座標値については、日本測地系で表記している。
- 6 本報告書の執筆・編集は、調査班職員、史跡・埋蔵文化財調査員、埋蔵文化財資料整理員の協力を得て羽方が行った。
- 7 本報告書を作成するにあたり、下記の機関から資料や情報の提供を受けた。
 - 宜野湾市教育部文化課（試掘成果、図面、写真）
 - 宜野湾市教育部宜野湾市立博物館（試掘成果）
 - 宜野湾市総務部税務課（航空写真）
 - 宜野湾市建設部都市計画課（地形図）

目 次

序、巻頭図版、例言

第1章 調査の概要	1
第1節 調査の目的	1
第2節 調査に至る経緯	1
第3節 調査経過	1
第4節 調査方法	7
第5節 調査体制	9
第6節 本報告書の作成体制	9
第2章 位置と環境	11
第1節 普天間飛行場の位置	11
第2節 自然環境	11
第3節 歴史的環境	17
第4節 普天間飛行場内の遺跡	21
第3章 基本層序	35
第1節 これまでの成果	35
第2節 統一層序	35
第4章 試掘調査	39
第1節 調査成果の概要	39
第2節 試掘地点と遺跡範囲	42
第3節 試掘調査一覧表	123
第5章 その他の調査	251
第1節 範囲確認調査	251
第2節 表面踏査	268
第3節 記録保存調査	274
第4節 旧土地利用再現調査	278
第5節 自然科学分析	278
第6章 考察	292
第1節 旧地形の復元	292
第2節 遺物包含層の変遷	303
第7章 結語	309
第1節 調査成果の概要	309
第2節 今後の課題	309
引用・参考文献	310
報告書抄録	

図目次

第 1 図	普天間飛行場における調査実績	5	第 17 図	範囲確認調査地点	252
第 2 図	普天間飛行場地区割	8	第 18 図	表面踏査地点	269
第 3 図	宜野湾市と普天間飛行場の位置	12	第 19 図	大山・伊佐・喜友名地区の平面図	270
第 4 図	地形分類図	13	第 20 図	宜野湾シリガーラ流域古墓群	272
第 5 図	地形断面モデルのライン設定図	13	第 21 図	記録保存調査地点	275
第 6 図	地形断面モデル	14	第 22 図	I 層の厚さ棒グラフ(厚さ別)	293
第 7 図	地質図	16	第 23 図	I 層の厚さ棒グラフ(グリット別)	294
第 8 図	土壤図	16	第 24 図	I 層 分布図	295
第 9 図	大正 8 年 地陸測量部作成の図面	18	第 25 図	I b 層 分布図	296
第 10 図	昭和 20 年 测量図	18	第 26 図	基盤層等高線図	297 ~ 302
第 11 図	昭和 23 年 連合軍作成の図面	19	第 27 図	VI 層 分布図	304
第 12 図	宜野湾市の大字・小字名	20	第 28 図	V 層 分布図	305
第 13 図	普天間飛行場内と周辺の遺跡	25	第 29 図	IV 層 分布図	306
第 14 図	フテ 13-E2-ナ南壁 土層図	36	第 30 図	III 層 分布図	307
第 15 図	試掘調査地点	41	第 31 図	II 層 分布図	308
第 16 図	試掘坑配置図	43 ~ 122			

図版目次

図版 1	昭和 20 年 米軍撮影の航空写真(オルソ画像)	19	図版 14	神山テラガマ洞穴 洞口	267
図版 2	現在の宜野湾市(令和 2 年撮影)	20	図版 15	神山テラガマ洞穴遺跡	267
図版 3	フテ 13-E2-ナ南壁	36	図版 16	神山テラガマ洞穴遺跡で採取された線刻石板	267
図版 4	大山富盛原第二遺跡 B1 調査区全景	262	図版 17	墓 15-7	270
図版 5	喜友名前原第二遺跡	262	図版 18	洞穴 25-1	271
図版 6	大謝名軍花原第一遺跡	263	図版 19	石積み 16-1	271
図版 7	大謝名軍花原第二遺跡	263	図版 20	宜野湾シリガーラ流域古墓群	272
図版 8	赤道渡呂寒原屋取古集落	264	図版 21	宜野湾シリガーラ流域古墓群 14 号墓	273
図版 9	野嵩タマタ原遺跡	264	図版 22	宜野湾シリガーラ流域古墓群 69 号墓内	273
図版 10	上原同原遺跡	265	図版 23	宜野湾クシヌウタキ遺跡	276
図版 11	赤道渡呂寒原洞穴遺跡	265	図版 24	大山岳佐久原遺跡	276
図版 12	神山同原遺跡	266	図版 25	上原瀧原遺跡	277
図版 13	神山後原ウシナー跡	266	図版 26	神山古集落	277

表目次

第 1 表	基地内文化財調査一覧表(沖縄県)	2	第 9 表	試掘坑の数量一覧表(グリット別)	40
第 2 表	基地内文化財調査一覧表(宜野湾市)	3	第 10 表	試掘調査一覧表	124 ~ 250
第 3 表	普天間飛行場の文化財調査工程表	4	第 11 表	範囲確認調査一覧表	253 ~ 261
第 4 表	文献別遺跡一覧表	22 ~ 24	第 12 表	表面踏査一覧表	268
第 5 表	遺跡一覧表	27 ~ 34	第 13 表	記録保存調査一覧表	274
第 6 表	各報告書の層序一覧表	37	第 14 表	自然科学分析 分析試料一覧表	279 ~ 284
第 7 表	統一層序一覧表	38	第 15 表	放射性炭素年代測定結果一覧表	285 ~ 291
第 8 表	試掘坑の数量一覧表(年度別)	39			

第1章 調査の概要

第1節 調査の目的

普天間飛行場内の試掘調査の目的は、基地返還前に遺跡の有無を確認することによって、文化財を適切に保護しつつ、基地返還後に予想される大規模な開発事業に対応するための基礎資料を作ることである。

試掘調査によって遺跡が見つかると、遺跡の場所・範囲が地図上に記載され、遺跡分布図が出来上がる。この遺跡分布図を広く一般に公開し、遺跡に関する情報を周知することが、埋蔵文化財行政の責務の一つとなる。

開発事業者が開発を計画する際に、遺跡分布図を参照し、事前に遺跡の有無を知ることができれば、遺跡に抵触しないような場所の選定や、掘削深度の検討などが可能となる。逆に、事前に遺跡の有無がわからず、開発工事を開始した後に偶然遺跡が見つかった場合、工事の一時停止や発掘調査の実施など、想定外の時間や費用がかかることとなる。

このように、遺跡に関する情報を周知し、その重要性についてより多くの人に理解を求めていくことが、遺跡保護と開発行為という、相反する行為を円滑に進めていく際の重要な鍵となる。

これまでに沖縄県と宜野湾市が行ってきた試掘調査の成果については、調査報告書として随時刊行され公表されてきた。本報告書の目的は、これまで刊行されてきた調査報告書の成果を集約し、検討を加えることによって、今後の調査や開発を進めていく際の基礎資料とすることである。

第2節 調査に至る経緯

昭和 20 年に終結した太平洋戦争の際、地上戦の場となった沖縄県は、壊滅的な打撃を受けた。

戦後は米軍の占領下に置かれ、各地に米軍の基地が建設された。

平成 8 年 12 月 2 日の日米安全保障協議委員会（S C C）では、「沖縄に関する特別行動委員会」（S A C O）の最終報告において、普天間飛行場を含む 11 施設・区域の返還が合意された。

これを受け、平成 11 年 12 月 28 日に「普天間飛行場の移設に係る政府方針」が閣議決定された。その後、平成 12 年 5 月からは国・沖縄県・宜野湾市の三者により「跡地対策準備協議会」が構成され、返還跡地利用の再開発事業と文化財保護を円滑に推進していくこととなった。

沖縄県では、平成 9 年から県内の米軍基地・自衛隊基地の中にある文化財の分布状況を把握するための調査を継続して行っており、平成 11 年度からは普天間飛行場内の試掘調査に着手した。

宜野湾市でも平成 13 年度から普天間飛行場内の試掘調査に着手した。

第3節 調査経過

平成 11 年度に普天間飛行場内の試掘調査が開始され、平成 22 年度までに 1,850 か所の調査が沖縄県と宜野湾市によって行われた。また、試掘調査の成果については、平成 25 年度までに調査報告書として随時刊行されている。

普天間飛行場は現在も稼働している基地であるため、滑走路や各種建物がある場所を調査対象から除き、さらに米軍の活動に支障がない場所を選んで調査を行った。

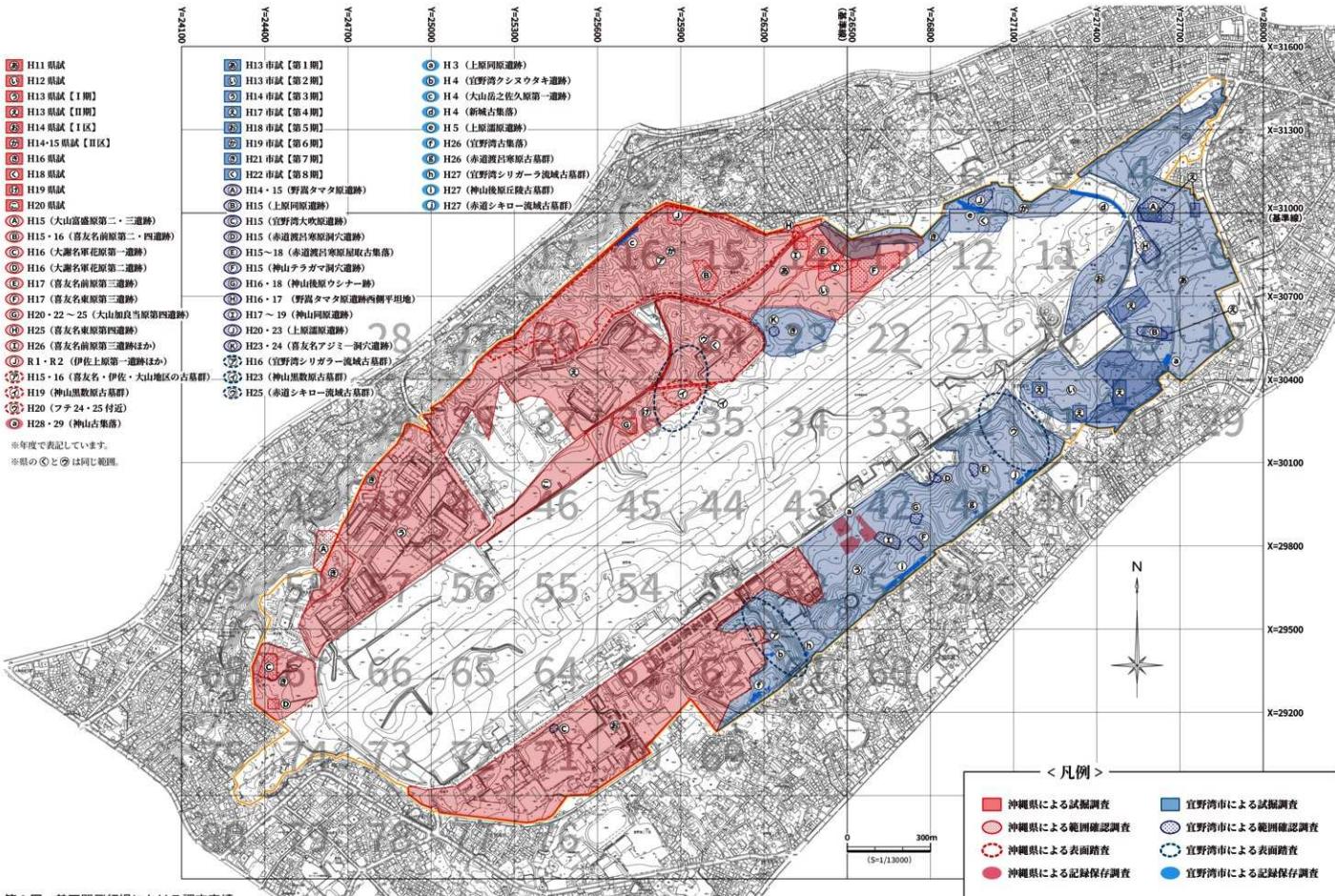
第1表 基地内文化財調査一覧表（沖縄県）

番号	調査年度	調査内容
1	平成9	・『基地内文化財Ⅰ』発行
2	平成10	・3月2日～3月16日 キャンプ瑞慶覧の試掘調査 59か所(県・基地内Ⅱ)
3	平成11	・2月16日、17日 キャンプ瑞慶覧の試掘調査 6か所(県・基地内Ⅱ) ・2月16日～3月7日 普天間飛行場の試掘調査 44か所(県・基地内Ⅱ)
4	平成12	・9月14日～10月19日 普天間飛行場の試掘調査 72か所(県・基地内Ⅱ)
5	平成13	・10月16日～12月17日 第Ⅰ期 試掘調査 105か所(県・基地内Ⅱ) ・1月22日～3月31日 第Ⅱ期 試掘調査 157か所(県・基地内Ⅱ) ・『基地内文化財Ⅲ』発行
6	平成14	・9月30日～11月20日 普天間飛行場の試掘調査 I区 103か所(県・基地内Ⅲ) ・11月1日～3月31日 普天間飛行場の試掘調査 II区 202か所(県・基地内Ⅲ)
7	平成15	・6月2日～2月27日 普天間飛行場の試掘調査 II区 64か所(県・基地内Ⅲ) ・9月1日～2月27日 大山富盛原第二遺跡、大山富盛原第三遺跡、喜友名前原第二遺跡、喜友名前原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内Ⅳ) ・10月15日～2月14日 試掘調査 26か所(県・基地内Ⅳ) ・10月21日～2月23日 喜友名・伊佐・大山地区の古墓群表面踏査(県・基地内Ⅳ) ・『基地内文化財Ⅲ』発行
8	平成16	・6月～7月 試掘調査 66か所・10月～2月 試掘調査 8か所(県・基地内Ⅳ) ・7月20日～12月16日 喜友名・伊佐・大山地区の古墓群表面踏査(県・基地内Ⅳ) ・7月21日～11月1日 大謝名草花原第一遺跡の範囲確認調査(県・基地内Ⅳ) ・9月8日～2月28日 大謝名草花原第二遺跡の範囲確認調査(県・基地内Ⅳ) ・12月17日～2月28日 喜友名前原第二遺跡、喜友名前原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内Ⅳ)
9	平成17	・8月1日～1月31日 喜友名前原第三遺跡、喜友名東原第三遺跡の範囲確認調査(県・基地内Ⅴ) ・『基地内文化財Ⅳ』発行
10	平成18	・10月2日～3月30日 普天間飛行場の試掘調査 76か所(県・基地内Ⅵ)
11	平成19	・8月1日～12月21日 普天間飛行場の試掘調査 56か所(県・基地内Ⅵ) ・8月1日～12月28日 神山黒原古墓群の表面踏査(県・基地内7)
12	平成20	・8月1日～9月9日 普天間飛行場の試掘調査 49か所(県・基地内6) ・9月12日～10月3日 フテ24-E1～H5他で発見された古墓群の表面踏査(県・基地内6) ・10月8日～1月28日 大山加良当原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内7) ・1月6日～2月5日 フテ24・25付近の表面踏査(県・基地内7)
13	平成21	・伐採と動植物調査の範囲設定(県・基地内7) ・『普天間飛行場内遺跡地図(中間報告)』発行
14	平成22	・12月1日～3月28日 大山加良当原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内7) ・『基地内文化財5』発行
15	平成23	・11月15日～3月23日 大山加良当原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内7)
16	平成24	・12月10日～3月21日 大山加良当原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内7)
17	平成25	・12月10日～2月24日 喜友名東原第四遺跡の範囲確認調査(未報告) ・2月19日～2月28日 大山加良当原第四遺跡の範囲確認調査(県・基地内7) ・『基地内文化財6』発行
18	平成26	・9月1日～3月13日 喜友名前原第三遺跡の範囲確認調査(未報告) ・『基地内文化財7』発行
19	平成27	・6月29日～10月8日 キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区)の試掘調査 試掘 94か所 トレンチ1箇所 ・11月30日～1月29日 キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地)の確認調査 トレンチ4箇所
20	平成28	・7月1日～9月4日 キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地)の試掘調査 試掘40か所 ・9月5日～12月9日 キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地)の確認調査 トレンチ4箇所 ・3月16日～平成29年8月17日 神山古集落の記録保存調査(県・文化財99)
21	平成29	・『基地内文化財8』発行
22	平成30	・『神山古集落』発行
23	令和元	・9月～3月 伊佐上原第一遺跡・伊佐上原南遺跡の範囲確認調査(未報告)
24	令和2	・12月15日～2月28日 伊佐上原第一遺跡・伊佐上原南遺跡の範囲確認調査(未報告)

第2表 基地内文化財調査一覧表（宜野湾市）

番号	調査年度	調査内容
1	平成3	・8月5日～9月10日 上原同原遺跡の記録保存調査(市・文化財16)
2	平成4	・9月1日～10月30日 宜野湾クシヌタキ遺跡の記録保存調査(市・文化財20・25)
3	平成5	・10月1日～3月31日 大山岳之佐久原第一遺跡・新城古集落の記録保存調査(市・文化財21)
4	平成6～12	・7月19日～12月25日 上原瀬原遺跡の記録保存調査(市・保護資料43) 省略
5	平成13	・2月6日～3月31日 普天間飛行場 第1期 試掘調査 215か所(市・基地内I)
6	平成14	・5月14日～5月30日 普天間飛行場 第2期 試掘調査 102か所(市・基地内I) ・11月5日～12月27日 普天間飛行場 第3期 試掘調査 272か所(市・基地内I) ・3月13日～平成15年10月 野嵩タマタ原遺跡の範囲確認調査(市・基地内II)
7	平成15	・1月5日～平成19年2月28日 赤道渡呂寒原屋取古集落の範囲確認調査(市・基地内III) ・2月25日～平成17年11月30日 上原同原遺跡の範囲確認調査(市・基地内II) ・2月24日～3月29日 神山チラガマ洞穴遺跡の範囲確認調査(市・基地内IV) ・3月2日～3月29日 赤道渡呂寒原洞穴遺跡の範囲確認調査(市・基地内III) ・宜野湾大次原遺跡の範囲確認調査(未報告)
8	平成16	・2月25日～3月 野嵩タマタ原遺跡西側平坦地の範囲確認調査(市・基地内III) ・10月～2月 宜野湾クシヌタキ遺跡・宜野湾ヌールガー・宜野湾シリガーラ流域古墓群・宜野湾カニクエーワマヌヤー跡の表面踏査(市・基地内III) ・3月 神山後原ウシナー跡の範囲確認調査(市・基地内IV) ・3月12日～ 神山同原遺跡 伐採・磁気探査(市・基地内IV) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書I』発行
9	平成17	・2月～3月31日 野嵩タマタ原遺跡西側平坦地の範囲確認調査(市・基地内III) ・9月26日～12月19日 神山同原遺跡の範囲確認調査(市・基地内IV) ・10月24日～11月22日 普天間飛行場 第4期 試掘調査 74か所(市・基地内II) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書II』発行
10	平成18	・9月27日～年末、2月1日～年度末 神山同原遺跡の範囲確認調査(市・基地内IV) ・10月～12月27日 神山後原ウシナー跡の範囲確認調査(市・基地内IV) ・2月13日～2月26日 普天間飛行場 第5期 試掘調査 43か所(市・基地内V) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書III』発行
11	平成19	・9月19日～10月31日 神山同原遺跡の範囲確認調査(市・基地内IV) ・10月1日～10月12日 普天間飛行場 第6期 試掘調査 26か所(市・基地内V) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書IV』発行
12	平成20	・上原瀬原遺跡の範囲確認調査(未報告) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書V』発行
13	平成21	・1月25日～2月16日 普天間飛行場 第7期 試掘調査 66か所(市・基地内VI)
14	平成22	・1月10日～3月16日 普天間飛行場 第8期 試掘調査 24か所(市・基地内VI)
15	平成23	・神山黒敷原古墓群・神山黒敷原第二遺跡の表面踏査(未報告) ・上原瀬原遺跡の範囲確認調査(未報告) ・喜友名アジミー洞穴遺跡の範囲確認調査(未報告)
16	平成24	・喜友名アジミー洞穴遺跡の範囲確認調査(未報告) ・『基地内埋蔵文化財調査報告書6』発行
17	平成25	・赤道シキロー流域古墓群・赤道渡呂寒原古墓群・中原同原遺跡の表面踏査(未報告) ・『宜野湾市文化財情報図(平成25年度版)』発行
18	平成26	・8月15日～22日、2月末～ キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区)の試掘調査 70か所(市・基地内VII) ・9月26日～3月30日 普天間飛行場巡回道路移設予定地の試掘 54か所(市・文化財55) ・1月19～3月30日 宜野湾古集落・赤道渡呂寒原古墓群の記録保存調査(市・文化財55)
19	平成27	・7月～2月 キャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区)の試掘 195か所 ・9月17～1月22日 宜野湾シリガーラ流域古墓群・神山後原丘陵古墓群・赤道シキロー流域古墓群の記録保存調査(市・文化財55)
20	平成28	・『普天間飛行場地区埋蔵文化財発掘調査報告書』発行
21	平成30	・『基地内埋蔵文化財調査報告書7』発行
22	令和元	・『宜野湾市文化財情報図(令和元年度版)』発行

第3表 普天間飛行場の文化財調査工程表



第4節 調査方法

(1) 事務手続き

米軍の基地内で調査を行うため、各種の申請が必要となる。最初に必要となるのが、基地内に入るるために必要な立入許可申請である。調査開始当初は、県・市が直接米軍に申請していたが、平成27年9月28日に日米両政府間で「環境補足協定」が締結されたため、それ以降は沖縄防衛局を通して申請することとなった。これに伴い、申請が許可されるときに現地協定を結び、調査計画書を提出することとなった。

次に、実際に基地に入る職員のパスを申請する。まず、個人情報を確認するために、所定の申請書・本人確認証・住民票を提出し、米軍の承認を得る必要がある。これをバックグラウンドコードチェック（BRC）と呼ぶ。その後、パス申請書にこれらの承認書類を添付して申請する。

パスの申請と同時に並行で、現場事務所設置、電気水道等の使用、掘削など各種の作業ごとに申請を行う。

現地調査が終了したら、調査概要報告を提出し、次年度の立入許可申請を行う。

(2) グリッド設定

沖縄県と宜野湾市が調整を行い、大・中・小3段階のグリッドを設定した。

第Ⅰ区画は、300m四方のグリッドで、普天間間飛行場を80に区分して通し番号を付けた。普天間飛行場の「フテ」と通し番号を組み合わせて、「フテ36」のように表記する。

第Ⅱ区画は、30m四方のグリッドで、第Ⅰ区画を100等分した。北東を起点として東西軸に1～10の数字、南北軸にA～Jのアルファベットを付けて、「A1」のように表記する。

第Ⅲ区画は、6m四方のグリッドで、第Ⅱ区画を25等分した。ア～ノのカタカナ25文字で表記する。

試掘箇所を設定する場合、第Ⅱ区画の北東隅を基点として30m間隔で設定した。ただし、建物や地下埋設物などの障害物があった場合、適宜平行

移動して設定した。試掘坑は、「フテ36-A1-A」のように表記する。

(3) 環境整備

調査区内に稀少な動植物が存在するかどうかを調べる環境調査を行い、それらに配慮して伐採作業を行う。また、地下埋設物（電気・水道・通信・下水道など）の有無について米軍に照会し、埋設物を避けて試掘箇所を設定する。

試掘箇所が決まったら測量を行い、基準杭を設置する。その後、不発弾の有無を確認するための磁気探査（表層探査）を行う。

(4) 掘削

掘削は、基本的に重機を使って4m四方を掘削するが、障害物や高低差がある場合など重機を使用できない場合は、2m四方を人力で掘削する。掘削深度が0.5m以上となる場合は、0.5m毎に磁気探査（経層探査）を行う。

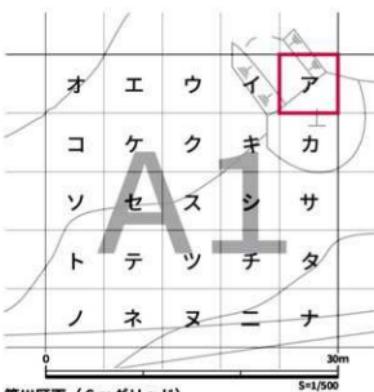
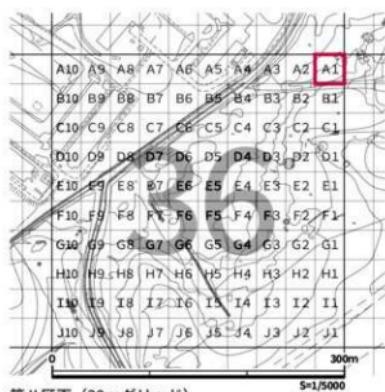
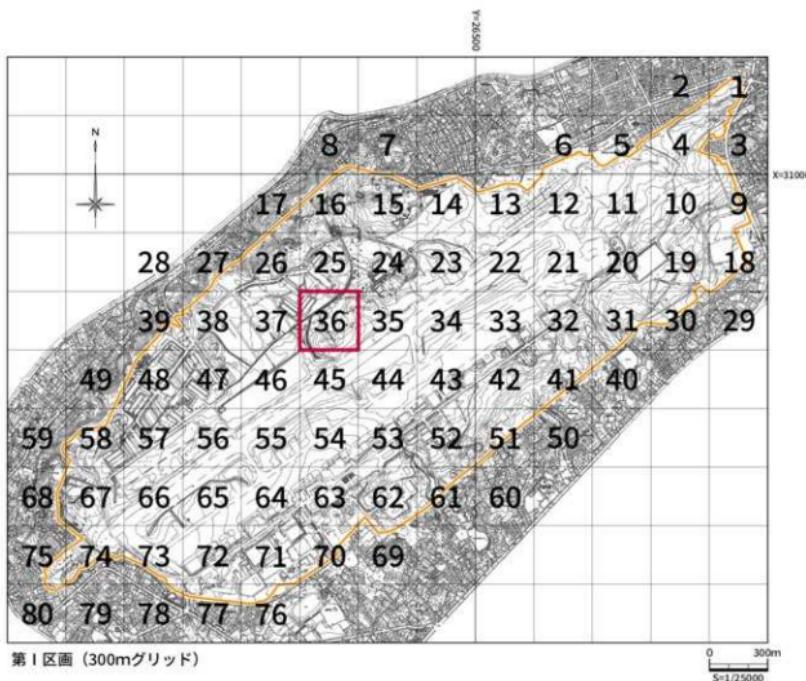
掘削は、基盤層（石灰岩や泥岩）が確認できるまで行うが、遺構が見つかった場合は掘り下げをいったんストップし、壁面と遺構面の清掃を行う。その後は、必要に応じて部分的に掘り下げる。

(5) 記録

壁面の分層等を行い、写真撮影や実測、観察所見の記載を行う。また、必要に応じて分析試料を採取する。

(6) 現状復旧

記録作業が終わったら、速やかに埋め戻しを行い、掘削前の状態に戻す。



第2図 普天間飛行場地区割

第5節 調査体制

(1) 調査エリアの分担

沖縄県と宜野湾市で調整を行った結果、普天間飛行場の滑走路の北側の調査を主に沖縄県が行い、南側を主に宜野湾市が行うことになった。

(2) 沖縄県の体制（平成11～25年度）

事業主体 沖縄県教育委員会

事業所管 沖縄県教育庁文化課 文化係、埋蔵文化財係（平成11年度）

沖縄県教育庁文化課 文化係、記念物係（平成12～18年度）
沖縄県教育庁文化課 文化班、記念物班（平成19～22年度）
沖縄県教育庁文化財課 管理班、記念物班（平成23～25年度）

事業実施 沖縄県教育庁文化課 文化班、記念物班（平成11年度）
沖縄県立埋蔵文化財センター
庶務課、調査課（平成12～19年度）
沖縄県立埋蔵文化財センター
総務班、調査班（平成20～25年度）

(3) 宜野湾市の体制（平成13～24年度）

事業主体 宜野湾市教育委員会

事業総括 宜野湾市教育部文化課

事業実施 宜野湾市教育部文化課 文化財保護係

第6節 本報告書の作成体制

(1) 平成30年度（資料整理）

事業主体 沖縄県教育委員会

教育長 平敷昭人

事業所管 沖縄県教育庁文化財課

課長 濱口寿夫

記念物班 班長 仲座久宜

主任専門員 羽方誠

主任 宮城淳一

事業実施 沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 登川安政

総務班 班長 比嘉智博

主幹 大城喜信

調査班 班長 中山晋

主任専門員 新垣力

主任 大堀皓平

史跡・埋蔵文化財調査員

太田樹也、小橋川里江、城間宏次郎、

平良和輝、根間翔吾

埋蔵文化財資料整理員

赤嶺雅子、安里メグ、池宮城聰子、伊藤惠美利、具志みどり、崎原美智子、島仲美香、下地勝恵、多々良亜矢子、知花香織、手嶋永子、富平砂綾子、比嘉なおみ、嶺井幸恵、

宮城初枝、宮里美也子、宮平笑里子
事務補助

宇座友香、大城香、喜瀬美由紀、

小橋川久美子、古見晶子、

照屋美奈子、平安綾、石橋英子

(2) 令和元年度（資料整理）

事業主体 沖縄県教育委員会

教育長 平敷昭人

事業所管 沖縄県教育庁文化財課

課長 濱口寿夫

記念物班 班長 仲座久宜

主任専門員 羽方誠

主任 宮城淳一

事業実施 沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 城田久嗣

副参事 真栄田義光

総務班 班長 池田みき子

主幹 大城善信

調査班 班長 中山晋

主任専門員 新垣力

主任 大堀皓平

史跡・埋蔵文化財調査員

城間宏次郎、佐藤悠介、比嘉菜々恵、
小橋川里江、平良和輝、波照間紗希
島袋桃子、平松司睦

埋蔵文化財資料整理員

島仲美香、下地勝恵、玉城実子、
具志みどり、嶺井幸恵、
多々良亜矢子、安次嶺沙織、
安里メグ、富山由貴、渡慶次学、
伊禮若奈、赤嶺雅子、伊藤恵美利、
玉那朝美野、松田仁美、又吉純子、
平良貴子、小波津由加里、嘉数渚、
宮城かの子、仲間文香、崎原美智子、
狩俣由利

事務補助

宇友香、佐久真洋子、東仲千夏、
喜瀬美由紀、小橋川久美子、
辻土名祐佳

(3) 令和2年度（資料整理）**事業主体** 沖縄県教育委員会

教育長 金城弘昌

事業所管 沖縄県教育庁文化財課

課長 諸見友重

記念物班 班長 仲座久宜

主任 大堀皓平、宮城淳一

事業実施 沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 瑞慶覧勝利

副参事 真栄田義光

総務班 班長 池田みき子

主幹 大城善信

調査班 班長 中山晋

主任専門員 知念隆博、羽方誠

主任 金城貴子

史跡・埋蔵文化財調査員

佐藤悠介、城間宏次郎、田辺博明、
比嘉菜々恵、比嘉玲奈

埋蔵文化財資料整理員

上原園子、小渡直子、嘉数渚、
儀間真章、具志みどり、工藤孝美、
下地麻利恵、富平砂綾子、富山由貴、

嶺井幸恵、宮城かの子、宮城初枝、
玉城実子、赤嶺雅子、伊藤恵美利、
玉那朝美野、松田仁美、又吉純子、
平良貴子、小波津由加里、
島袋久美子、伊禮若菜

事務補助

伊波みゆき、喜瀬美由紀、
小橋川久美子、福地結子

(4) 令和3年度（資料整理、報告書作成）**事業主体** 沖縄県教育委員会

教育長 金城弘昌

事業所管 沖縄県教育庁文化財課

課長 諸見友重

記念物班 班長 仲座久宜

主任 大堀皓平、金城貴子

事業実施 沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 瑞慶覧勝利

総務班 班長 池田みき子

主査 渡久山盛之

調査班 班長 中山晋

主幹 知念隆博

主任専門員 羽方誠

専門員 廣岡凌

専門員（臨時の任用職員）城間宏次郎

史跡・埋蔵文化財調査員

城間宏次郎、比嘉菜々恵、

比嘉玲奈、メレン千穂

埋蔵文化財資料整理員

上原園子、小渡直子、嘉数渚、

工藤孝美、當山由貴、宮城かの子

事務補助

伊波みゆき、喜瀬美由紀、

小橋川久美子、福地結子

第2章 位置と環境

第1節 普天間飛行場の位置

普天間飛行場がある宜野湾市は、沖縄島中部の西側に位置する。北東—南西方向に長軸を持つ略台形で、宜野湾市の北側は北谷町と北中城村、東側は中城村、南側は西原町・浦添市と接している。

普天間飛行場は宜野湾市のほぼ中央にあり、海岸段丘の平坦地を利用して建設されている。宜野湾市の面積が 19.8 km² であるのに対し、普天間飛行場の面積は 4.759 km² となっており、市の面積の 4 分の 1 を占める。

第2節 自然環境

(1) 地形

宜野湾市の地形・地質に関しては、『宜野湾市史 第9巻 資料編8 自然』に詳しく記載されているため、引用しながら記述する（上原 2000）。

宜野湾市の地形は、西側の海浜や海岸低地と、そこから続く 3 段の海岸段丘から成っているため、大きく 4 つの平坦面に分けることができる。また各平坦面の境には、海岸段丘崖などがあり 10 m 以上の高低差がある。ここでは標高の低いほうから、第 1 面、第 2 面…と呼ぶ。

第 1 面は、標高 30 m 以下の海浜・埋め立て地・海岸低地で、国道 58 号線宜野湾バイパスが通っている一帯である。

第 2 面は、標高 30 ~ 40 m で、国道 58 号線が通っている一帯である。

第 3 面は、標高 50 ~ 90 m で、4 つの平坦面の中で最も面積が広い。普天間飛行場やキャンプ場・慶覧がその大部分を占めている。『宜野湾市』では、第 2 面と第 3 面を分ける段丘崖の所々に存在する平坦面について指摘しているが、他の段丘面より範囲が狭いため、ここでは平坦面としては数えていない。

第 4 面は、標高 90m 以上で、国道 330 号線が通っている一帯である。この面は、南東—北西方

に向う谷やくぼ地によって、細かく分断される。

普天間飛行場は主に第 3 面を利用して建設されているが、第 4 面とそこから第 3 面へと続く丘陵斜面も取り込んで建設されているため、全体ではかなりの高低差がある。

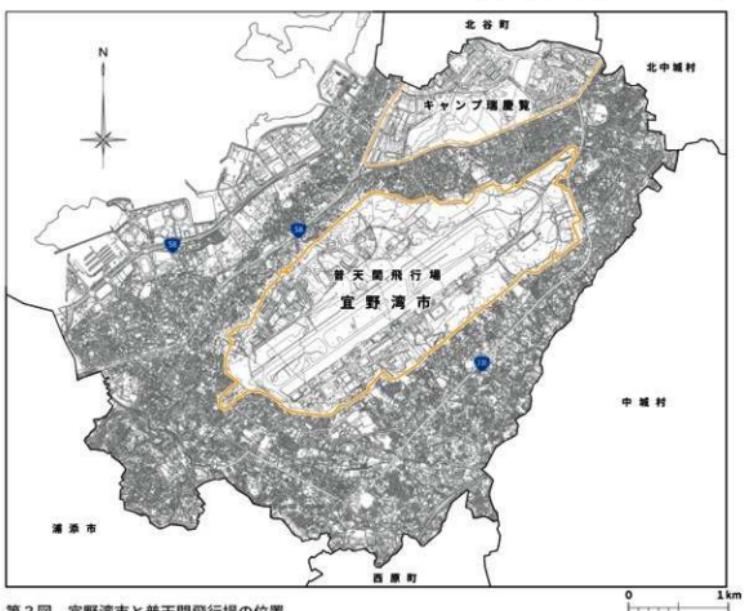
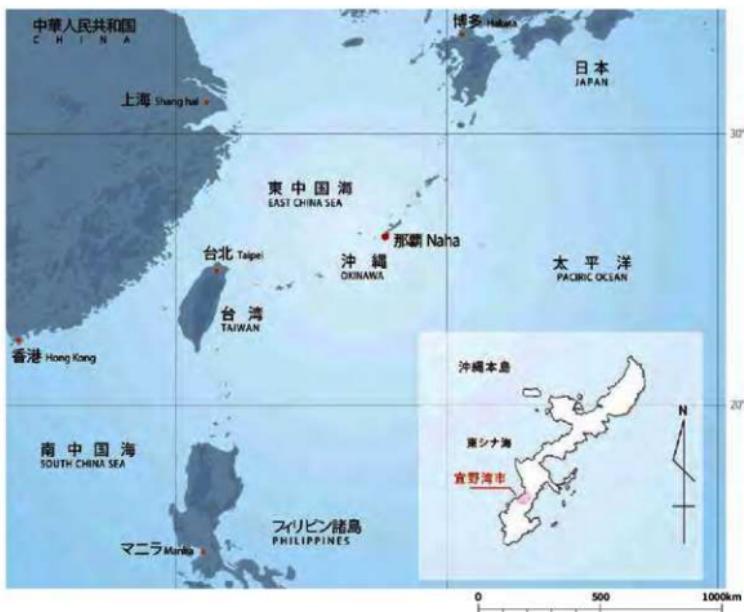
(2) 地質・土壤

宜野湾市に分布する最も古い地層は新生代第三紀中新世（約 1000 万年前）から新生代第四紀更新世前期（約 150 万年前）に海底で堆積した島尻層群である。この島尻層群を不整合に覆って第四紀更新世中期（60 ~ 20 万年前）の琉球層群が分布している。最も新しい地層は、海岸低地や谷底低地などに分布する沖積層で、1 万年前から現在までの完新世（沖積世）に堆積した。

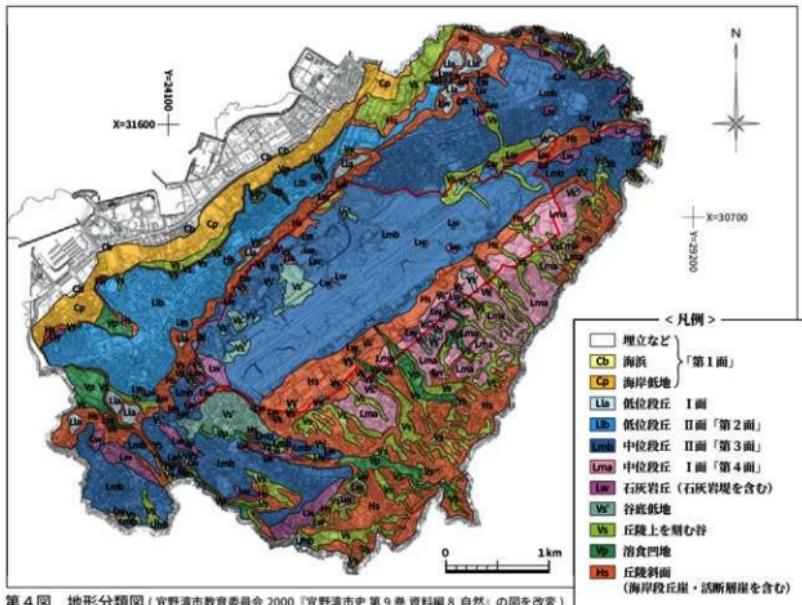
島尻層群は、国道 330 号線周辺を中心に分布しており、丘陵の地形をつくっている。また、鍾乳洞や川岸、市域西側の低位段丘崖沿いにも露出している。島尻層群は、下位（古い）から上位（新しい）へ豊見城層・与那原層・新里層の 3 層に細分されている。これら 3 層のうち、宜野湾市に分布するのは与那原層である。

島尻層群は、灰色の泥岩と茶褐色の砂岩から構成されている。沖縄では、泥岩をクチャ、砂岩をニーピと呼ぶことが多い。宜野湾市の島尻層群は泥岩を主体とするが、普天間川左岸や愛知の宜野湾小学校付近などには砂岩が露出している。新鮮な泥岩は比較的硬く締まっているが、風雨にさらされると急速に風化が進み軟らかくなる。一般に風化した泥岩をジャーガル、風化した砂岩をウジマと呼ぶ。

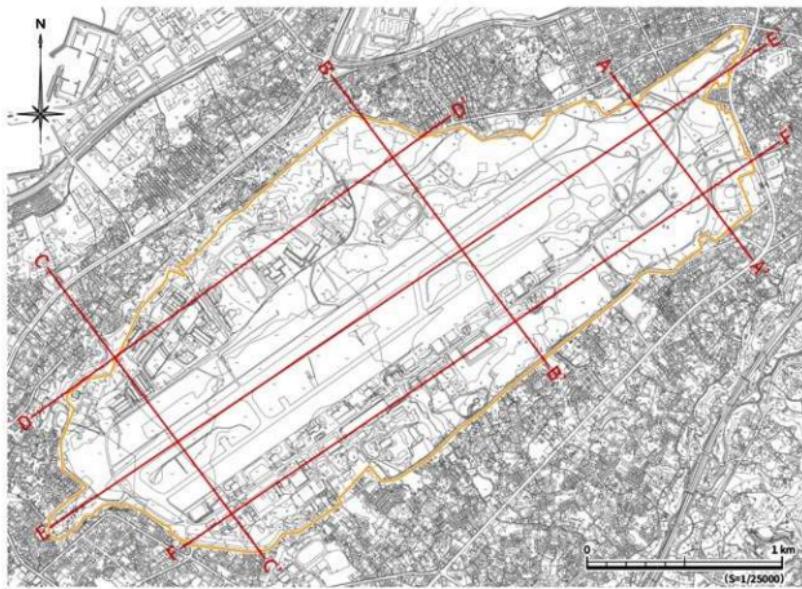
島尻層群の表面は地表部で起伏にとんでいるが、鍾乳洞で観察されるように琉球石灰岩との不整合面は、北西—南東方向に延びる谷になっているようである。このことは、島尻層群が堆積したのに、いったん隆起して陸地化したこと示す。陸地化している間に浸食によって谷が形成されたと考えられる。その後、再び島尻層群は海中に沈み、琉球石灰岩が上に堆積することになる。



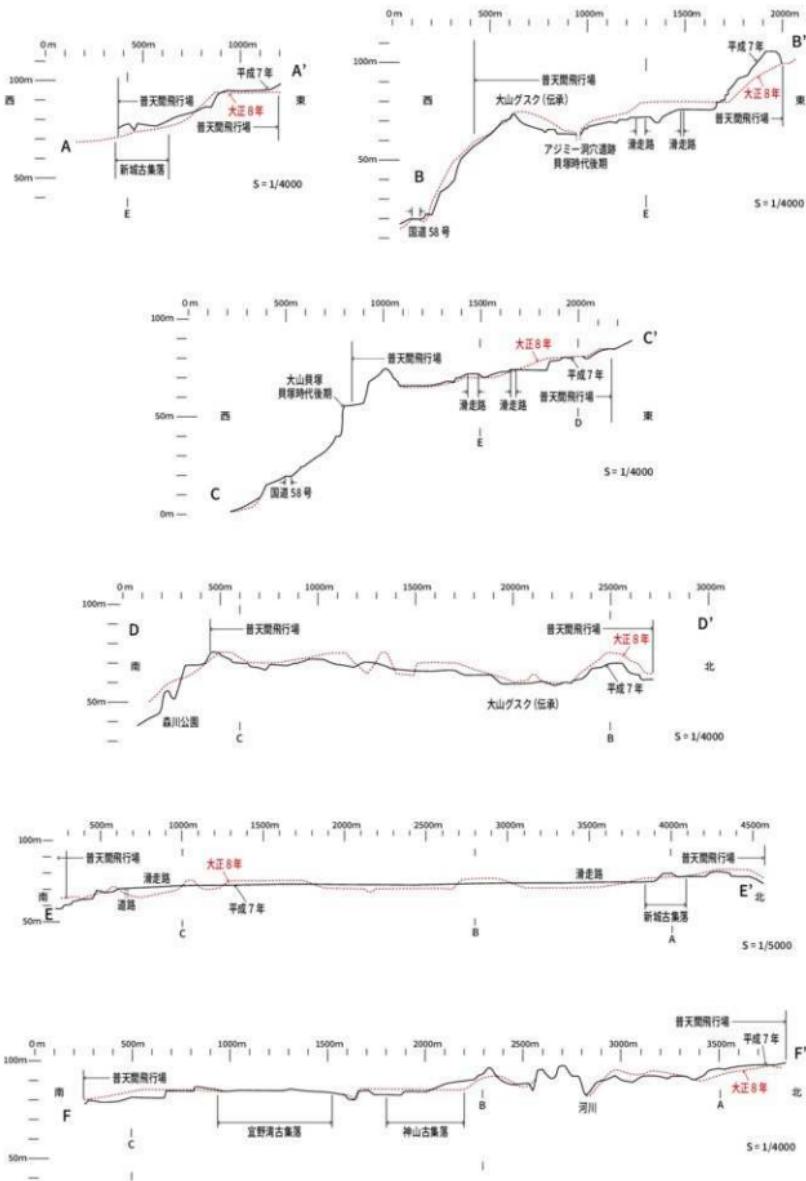
第3図 宜野湾市と普天間飛行場の位置



第4図 地形分類図（宜野湾市教育委員会 2000『宜野湾市史 第9巻 資料編 8 自然』の図を改変）



第5図 地形断面モデルのライン設定図（沖縄県教育委員会 2002『普天間飛行場内埋蔵文化財調査実施計画（中間報告）』を改変）



第6図 地形断面モデル（沖縄県教育委員会 2002「普天間飛行場内埋蔵文化財調査実施計画（中間報告）」を改変）

琉球層群は国頭礫層と琉球石灰岩に分けられるが、宜野湾市には琉球石灰岩のみが分布している。琉球石灰岩は更新世のサンゴ礁に由来する地層で、60～50万年前の那覇石灰岩と20万年前の読谷石灰岩に分けられる。いずれもサンゴをはじめとするサンゴ礁生物の化石を多く含んでおり、層厚は数m～30mと変化に富むが、中位段丘の西側ほど厚くなるようである。

琉球石灰岩は、下位の島尻層群を不整合に覆っている。したがって琉球石灰岩は、島尻層群が隆起によって陸化し、再び海中に沈降したのちの、第四紀更新世早～中期に発達したサンゴ礁の堆積物である。その後の地殻変動によって、この時代のサンゴ礁が島尻層群とともに断続的に隆起して台地をつくる琉球石灰岩になった。

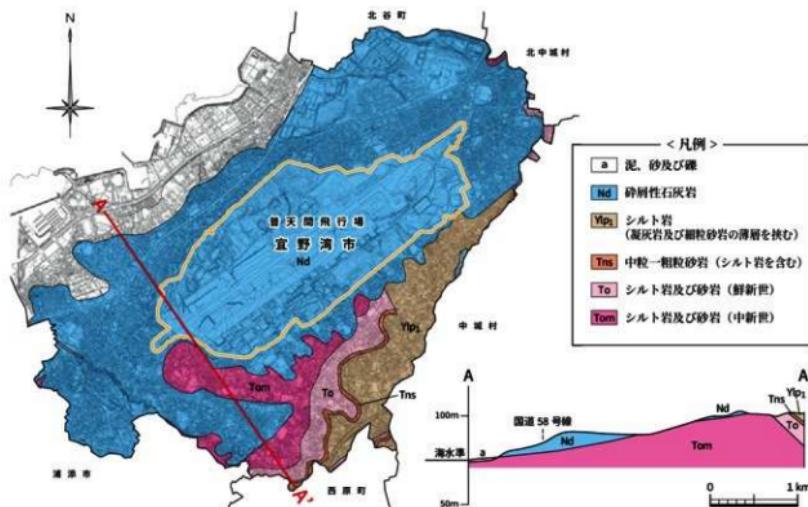
琉球石灰岩の外気に接する表面は暗灰色を示すが、内部は白色ないし黄白色である。内部は固く固結していることもあれば、軟らかいこともある。固結は石灰岩の再結晶と上から圧力が加わったことが原因であり、沖縄でマーイシ（真石）という。マーイシは屋敷の石垣やヒンブン、石畳などに利用されてきた。軟らかい部分はイシグー（石粉）と呼ばれ、水による乾湿が繰り返されると再結晶が進み硬くなる性質がある。イシグーは道路の路盤材に利用されている。

琉球石灰岩を母材として生成されたとされるのが、島尻マージである。土色は暗褐色～明褐色で、細粒質である。保水力は低い。島尻マージの生成過程については不明な部分が多く、母材については琉球石灰岩由來説と、周辺土壤由來の風化物説がある。

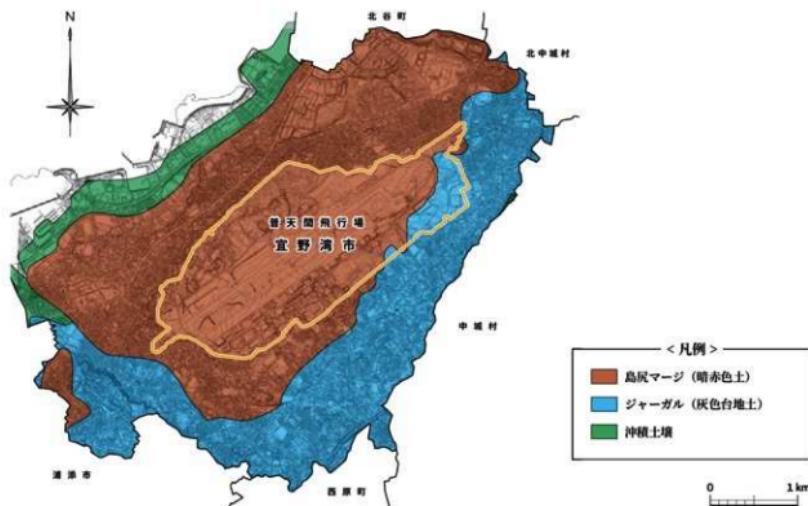
宜野湾市に分布する最も新しい地層は、谷底低地や海岸低地をつくっている沖積層である。沖積層は、第四紀完新世（約1万年前から現在）の地層である。

低温な海岸低地の沖積層は、サンゴ礁生物起源の砂礫と陸起源の粘土が混じりあっていることが多く、暗灰色である。一方、埋め立て地の一部に最近生じた海浜の堆積物も沖積層である。海浜の沖積層はサンゴ礁起源の砂礫からなり、陸起源

の物質が少なく白色である。谷底低地の沖積層は、島尻層群の風化物質に由来する砂やシルトおよび粘土からなり、暗灰色を呈し、ジャーガルと呼ばれることがある。



第7図 地質図（産業技術総合研究所地質調査総合センター 2006 「1:50,000 地質図幅 那覇及び沖縄市南部」を改変）



第8図 土壤図（国土土地局発行 1977 「土地分類図（土壤図）沖縄県」を改変）

第3節 歴史的環境

1 旧石器時代

普天間飛行場内では、旧石器時代の遺跡は発見されていない。飛行場の北側にある大山洞穴では、「大山洞人」と呼ばれる二十歳前後の人間の下顎骨片が発見されている。

今後、飛行場内の洞穴や未調査エリアの調査が進めば、旧石器時代の遺跡が発見される可能性もある。

2 繩文時代

普天間飛行場内では、縄文時代後期・晩期の遺跡が確認されている。喜友名前原第二遺跡や大山富盛原第二遺跡では、竪穴構造が確認されており集落跡と考えられる。上原満原遺跡では、烟跡と考えられる遺構が確認されており、原始農耕的な生産遺跡の可能性があるとされている。

この時代の遺跡は他にも確認されているが、いずれも滑走路北側の段丘縁辺に分布しているという特徴がある。

3 弥生～平安並行時代

この時代の遺跡は少ない。喜友名アジミー洞穴遺跡のほか、大山芋久保原第二遺跡の範囲内で行われた試掘調査や、大山岳之佐久原第一遺跡の記録保存調査で土器が出土している程度である。

4 グスク時代

グスク時代になると、普天間飛行場全体に遺跡が分布するようになる。喜友名前原第二遺跡では、12～13世紀頃の掘立柱建物群に伴って、イネを中心とした多くの炭化種子が出土した。

野嵩タマタ原遺跡や大謝名軍花原第二遺跡では、植栽痕と考えられる列状ピット群が確認されている。

5 近世・近代・戦前

近世については、集落や古墓など多くの遺跡が確認されている。主な集落には、宜野湾古集落、神山古集落、新城古集落、赤道渡呂寒原屋取古集

落などがある。神山古集落では、屋敷跡に伴う区画溝や井戸などが検出されている。

主な古墓は、北側にある大山東方丘陵古墓群や神山黒数原古墓群、南側にある宜野湾シリガーラ流域古墓群や赤道渡呂寒原古墓群などである。

その他にも、祭祀遺跡である宜野湾クシヌウタキ遺跡、線刻石板が発見された神山テラガマ洞穴遺跡、闘牛場である神山後原ウシナー跡、宿道である宜野湾並松街道など多種多様な遺跡がある。

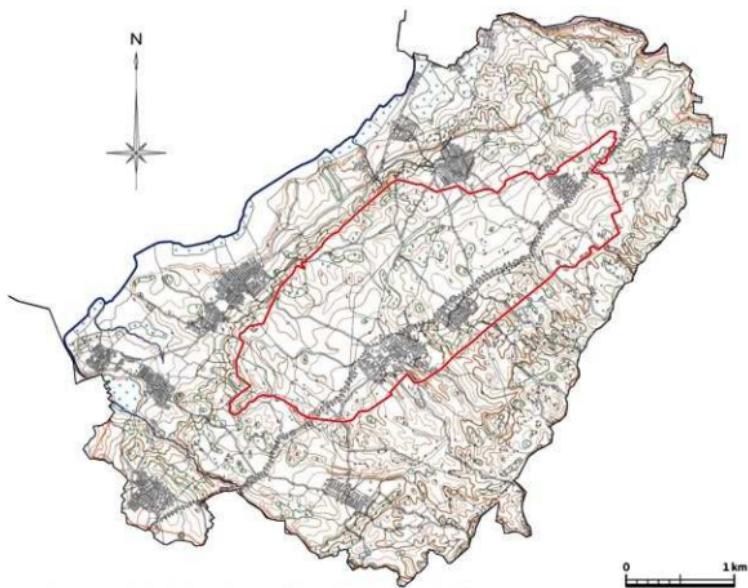
戦前の測量図や航空写真を見ると、大部分は畠などの耕作地であったことがわかる。

6 戦中・戦後

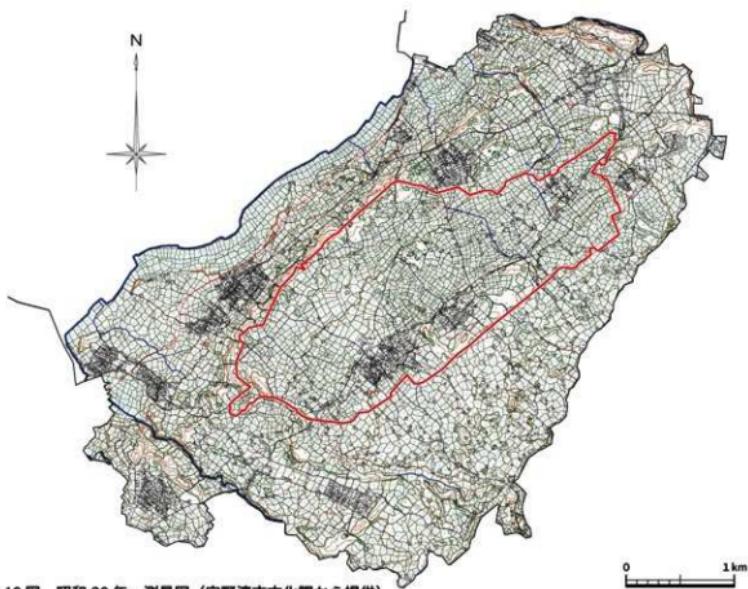
太平洋戦争の末期、1945年3月から6月にかけてアメリカ・イギリス連合軍と日本軍との間で行われた沖縄戦によって、耕作地に囲まれた風景は一変する。沖縄戦時に旧日本軍が造った遺構に、神山古集落で検出された防空壕や塹壕などがある。

普天間飛行場は、1945年4月以降に米軍占領と同時に接収され、本土決戦に備えて米陸軍工兵隊が滑走路を建設したことから始まる。基地内に存在した宜野湾集落、神山集落、新城集落や各屋取集落は収容され、住民は移転を強要された。1950年代になると、朝鮮戦争を背景として、沖縄の戦略的重要性が高まったため、飛行場内での拡張工事、大規模造成がたびたび行われた。1960年代には海兵隊施設に移管され、海兵隊航空基地として利用が開始された。

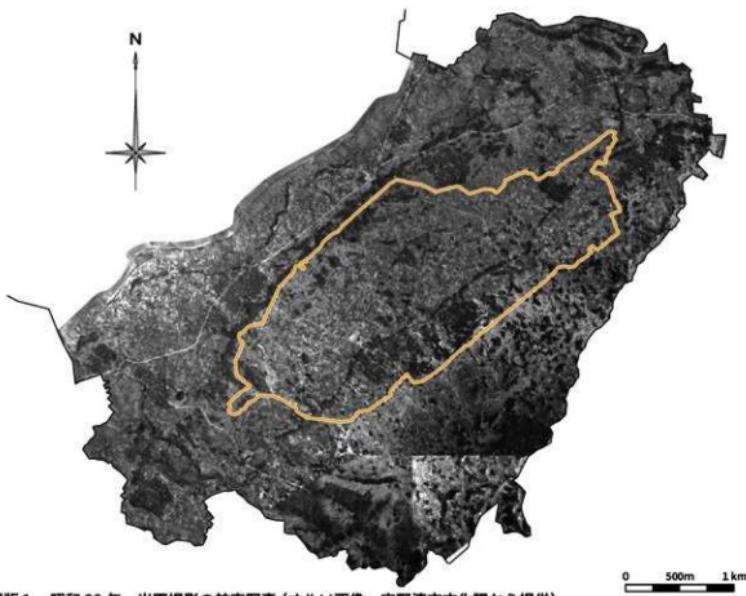
日本復帰後は、普天間海兵隊飛行場・普天間陸軍補助施設・普天間飛行場通信所の3施設が統合されて、普天間飛行場となった。現在では、長さ2,800m、幅46mの滑走路を有し、在日米軍基地の中でも岩国基地と並ぶ有数のヘリコプター部隊の拠点となっている。



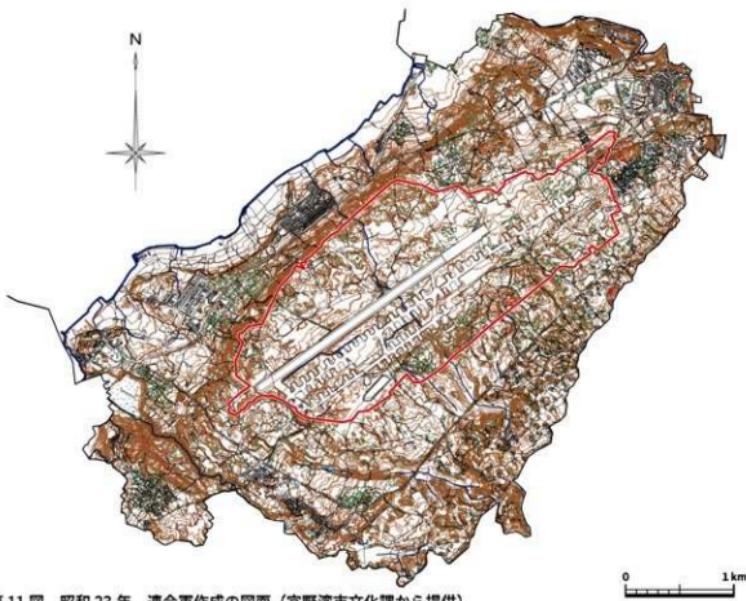
第9図 大正8年 陸地測量部作成の図面（宣野湾市文化課から提供）



第10図 昭和20年 測量図（宣野湾市文化課から提供）



図版1 昭和20年 米軍撮影の航空写真（オルソ画像 宜野湾市文化課から提供）



第11図 昭和23年 連合軍作成の図面（宜野湾市文化課から提供）



第12図 宜野湾市の大字・小字名
(宜野湾市文化課から提供)



図版2 現在の宜野湾市 (令和2年撮影 宜野湾市税務課から提供)

第4節 普天間飛行場内の遺跡

普天間飛行場内にある 101 の遺跡について、文献を振り返りながら遺跡発見数の変遷をたどる。

- ①『宜野湾市の遺跡』1982年 27 遺跡
- ②『土に埋もれた宜野湾』1989年 34 遺跡
- ③『宜野湾市文化財情報図（平成2年度版）』47 遺跡
- ④『宜野湾市の文化財情報図』2000年 55 遺跡
- ⑤『宜野湾市文化財情報図（平成13年度版）』2002年 59 遺跡
- ⑥『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』2010年 102 遺跡
- ⑦『宜野湾市文化財情報図（平成25年度版）』2014年 105 遺跡
- ⑧『宜野湾市文化財情報図（令和元年度版）』2020年 105 遺跡
- ⑨『基地内文化財9』2022年 101 遺跡

昭和57年に刊行された文献①では、普天間飛行場内には27の遺跡が確認されている。その後、宜野湾市によって分布調査が行われ、遺跡数が少しずつ増加していく。

平成11年度から普天間飛行場の試掘調査が始まり、その成果に基づいて作成された遺跡地図（文献⑥）では、遺跡数が102まで増加している。

試掘調査がほぼ終了した平成22年度（2010年度）以降に刊行された文献⑥～⑨については、遺跡数に少しずつ増減があるが、その理由は次のとおりである。

1 調査が進み、新規の遺跡が発見されたことによる遺跡数の増加。

- 323 宜野湾並松街道
- 330 神山アカムウイ遺跡
- 331 神山ウィームウイ遺跡
- 344 伊佐上原南遺跡

2 普天間飛行場の中にあるのか外にあるのかを再検討した結果による遺跡の増減。

- 増加：134 大山富盛原第二遺跡
- 減少：47 新城トゥン遺跡
- 127 大山芋久保原第一遺跡

129 大山勢頭原第一遺跡

- 3 遺跡の内容を再検討した結果、遺跡を削除したことによる減少。
 - 99 伊佐上原遺跡群G地点
 - 125 大山加良当原第二遺跡（仮称）
- 4 基地の一部が返還されたことによる遺跡数の減少。
 - 260 宜野湾後原遺物散布地
 - 341 佐真下屋取古集落
- 以上のような遺跡数の増減以外にも、次のような変更があった。
- 5 あいまいだった遺跡範囲の明確化
 - 68 喜友名前原第二遺跡
 - 81 喜友名前原第四遺跡
 - 102 伊佐上原東方遺跡
 - 130 大山勢頭原第二遺跡
 - 132 大山富盛原第一遺跡
 - 135 大山富盛原第三遺跡
 - 146 大山チャシグスク遺跡
 - 159 真志喜富盛原第一遺跡
 - 287 神山後原丘陵古墓群
 - 293 赤道渡呂寒原古墓群
- 6 遺跡名の変更
 - 93 伊佐上原遺跡群A地点 → 伊佐上原第一遺跡
 - 100 伊佐上原遺跡群H地点 → 伊佐上原第四遺跡
- 7 1か所の遺跡に対して複数の遺跡番号が付いていたため、遺跡を統合したことによる遺跡数の減少。（基地外）
 - 94 伊佐上原遺跡群B地点
 - 95 伊佐上原遺跡群C地点
 - 96 伊佐上原遺跡群D地点
 - 97 伊佐上原遺跡群E地点
 - 4 遺跡を統合して伊佐上原第二遺跡
- 8 遺跡の範囲変更
 - 285 神山テラガマ洞穴遺跡
 - 291 赤道渡呂寒原洞穴遺跡
 - 292 赤道渡呂寒屋取古集落

第4表 文献別遺跡一覧表(1)

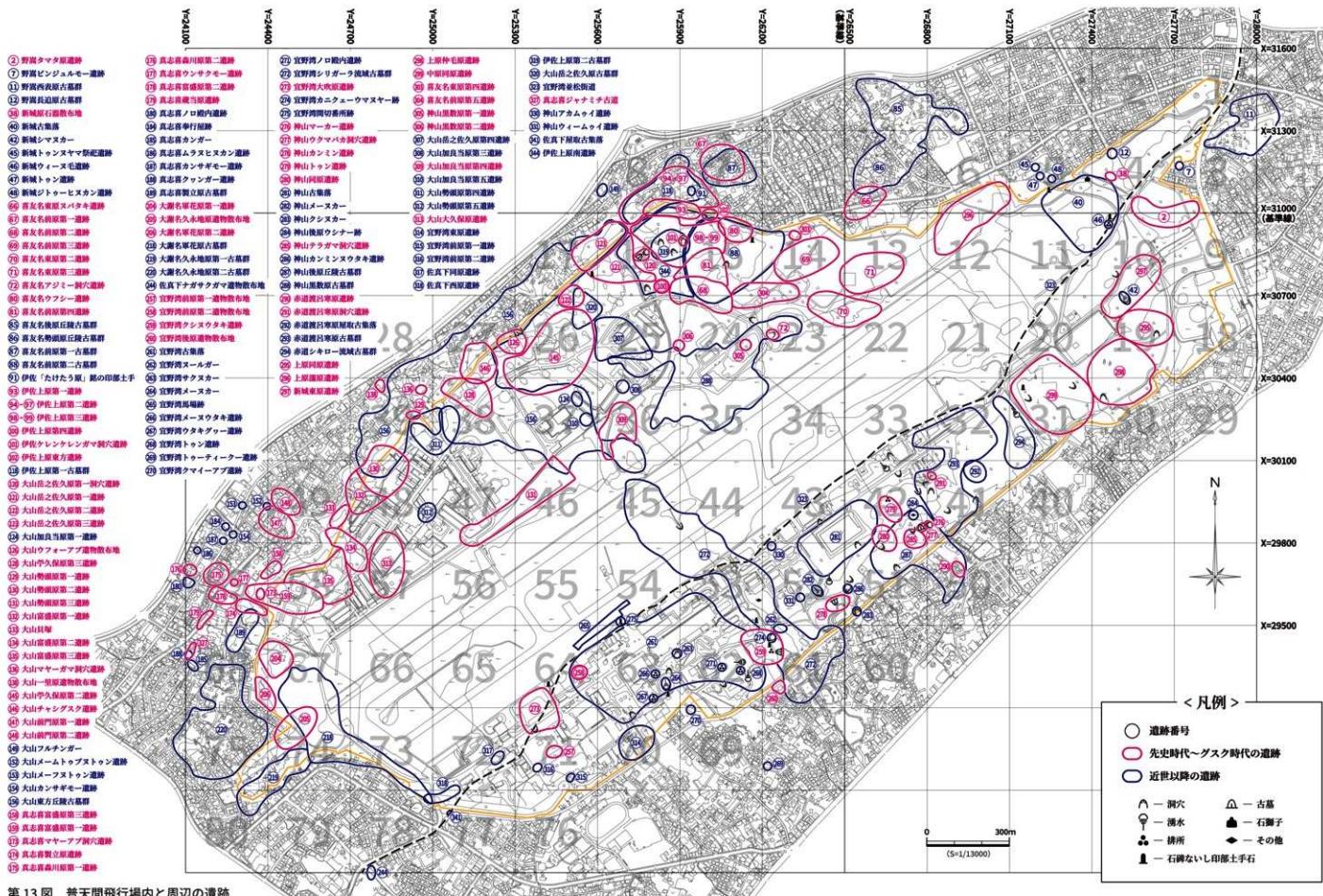
No.	遺跡番号	遺跡名	文献									備考
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
1	2	野瀬タマ原遺跡 のせたまはらいせき	-	-	○	○	○	○	○	○	○	
2	12	野瀬長迫原古墓群 のせながはしらはらこぼ	-	-	-	○	○	○	○	○	○	
3	38	新城原石器散布地 あいのわらしきひき	-	-	-	○	○	○	○	○	○	
4	40	新城古集落 あいのわら	-	○	○	○	○	○	○	○	○	②～⑤では遺跡名が新城古集落跡
5	42	新城シマスカー あいのわら	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
6	46	新城ウーメ古道跡 あいのわら	-	-	-	-	○	○	○	○	○	⑦～⑩では遺跡名が新城ウージョモー祭祀遺跡
7	47	新城トゥン遺跡 あいのわら	-	-	-	-	○	○	-	-	-	基地外
8	68	喜友名前原第二遺跡 きゆみのまへはら	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
9	69	喜友名前原第三遺跡 きゆみのまへはら	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
10	70	喜友名東原第二遺跡 きゆみのひがしはら	-	-	○	○	○	○	○	○	○	
11	71	喜友名東原第三遺跡 きゆみのひがしはら	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
12	72	喜友名アジミー洞穴遺跡 きゆみのあじみーとうけつ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
13	80	喜友名ウフシー遺跡 きゆみのウフシー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①では遺跡名が喜友名ウフシー遺物散布地
14	81	喜友名前原第四遺跡 きゆみのまへはら	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
15	88	喜友名前原第二古墓群 きゆみのまへはら	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
16	93	伊佐上原第一遺跡 いさうらはら	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～⑤では遺跡名が伊佐上原遺跡群 ⑥～⑩では伊佐上原遺跡群A地点
17	98	伊佐上原第三遺跡 いさうらはら	-	-	-	-	○	○	○	○	○	⑥～⑩では遺跡名が伊佐上原遺跡群F地点
18	99	伊佐上原遺跡群G地点 いさうらはら	-	-	-	-	-	○	○	○	○	再検討の結果削除。
19	100	伊佐上原第四遺跡 いさうらはら	-	-	-	-	-	○	○	○	○	⑥～⑩では遺跡名が伊佐上原遺跡群H地点
20	101	伊佐ケレンケレンガ洞穴遺跡 いさくろんくろんが	-	-	-	○	○	○	○	○	○	④～⑩では遺跡名が伊佐上原第二洞穴遺跡
21	102	伊佐上原東方遺跡 いさうらひがし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22	118	伊佐上原第一古墓群 いさうらまへはら	-	-	-	-	-	○	○	○	○	⑦～⑩では遺跡名が伊佐上原古墓群
23	120	大山岳之佐久原第一洞穴遺跡 おおやまだけのさくわら	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
24	121	大山岳之佐久原第一遺跡 おおやまだけのさくわら	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～②では遺跡名が大山岳之佐久原北方遺物散布地 ③は大山岳之佐久原北方遺跡
25	122	大山岳之佐久原第二遺跡 おおやまだけのさくわら	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～③では遺跡名が大山岳之佐久原南方遺物散布地
26	123	大山岳之佐久原第三遺跡 おおやまだけのさくわら	-	-	-	○	○	○	○	○	○	
27	124	大山加良当原第一遺跡 おおやまからとうら	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～④では遺跡名が大山加良当原南方遺物散布地 ⑤～⑥は大山加良当原遺跡
28	125	大山加良当原第二遺跡 (南) おおやまからとうら	-	-	-	-	-	○	○	○	○	再検討の結果削除。
29	126	大山ウツワープ遺物散布地 おおやまうつわーぱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
30	127	大山学久原第一遺跡 おおやまがくわら	○	○	○	○	○	○	○	○	○	基地外に所在。
31	128	大山学久原第二遺跡 おおやまがくわら	-	-	-	-	-	○	○	○	○	
32	129	大山学久原第三遺跡 おおやまがくわら	○	○	○	○	○	○	○	○	○	基地外に所在
33	130	大山勢頭原第一遺跡 おおやませいとうら	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①では遺跡名が大山第三洞窟遺跡
34	131	大山勢頭原第二遺跡 おおやませいとうら	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
35	132	大山勢頭原第三遺跡 おおやませいとうら	-	-	-	○	○	○	○	○	○	①～③では遺跡名が大山富盛原北方遺跡
36	134	大山富盛原第一遺跡 おおやまふぜんら	○	○	○	○	○	-	○	○	○	①～③では遺跡名が大山富盛原南方遺跡 ⑥では基地外

第4表 文献別遺跡一覧表(2)

No.	遺跡番号	遺跡名	文献									備考
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
37	135	おおやまとくわいばる 大山富盛原第三道跡 おおやまとくわいばる	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○
38	145	大山学久保原第二遺跡 おおやまとくわいばる	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○
39	146	大山チャシグスク遺跡 おおやまとくわいばる	-	-	○	○	○	○	-	-	○	⑦⑧で127は基地内、146は基地外。
40	156	大山東方久保古墓群 おおやまとくわいばる	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○
41	159	真志喜原第一遺跡 まきしーはら	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
42	174	真志喜原花原遺跡 まきしーはら	○	○	○	○	○	○	-	-	-	基地外に所在
43	204	大瀬名軍原第一遺跡 おおせなぐら	-	-	-	-	-	○	○	○	○	⑦⑧では遺跡名が大瀬名軍花原遺跡
44	205	大瀬名久保地図遺物散布地 おおせなくわいばる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
45	209	大瀬名軍花原第二遺跡 おおせなくわいばる	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○
46	218	大瀬名軍原古墓群 おおせなくわいばる	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○
47	219	大瀬名久保地原第一古墓群 おおせなくわいばる	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○
48	220	大瀬名久保地原第二古墓群 おおせなくわいばる	-	-	-	-	-	○	-	-	-	基地外に所在
49	257	宜野溝前原第一遺物散布地 ぎのくわいばる	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○
50	258	宜野溝前原第二遺物散布地 ぎのくわいばる	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○
51	259	宜野溝クシヌタキ遺跡 ぎのくわいくしむたき	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
52	260	宜野溝後原遺物散布地 ぎのくわいほくわいばる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	フェンスを跨いでいたが、返還された。 (現在は基地外。)
53	261	宜野溝古集落 ぎのくわい	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○
54	262	宜野溝ヌールガーラ ぎのくわい	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○
55	263	宜野溝サクヌカーラ ぎのくわい	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○
56	264	宜野溝ヌヌカーラ ぎのくわい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
57	265	宜野溝馬場跡 ぎのくわい	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○
58	266	宜野溝ヌヌウタキ遺跡 ぎのくわい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	267	宜野溝ウタキギワーラ遺跡 ぎのくわい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	③～⑤では遺跡名がナカヌウタキ
60	268	宜野溝トゥン遺跡 ぎのくわい どくわい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
61	271	宜野溝ノロ殿内遺跡 ぎのくわい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～⑤では遺跡名が宜野溝ヌンドゥンチ ⑦⑧は宜野溝ヌンドゥヌチ
62	272	宜野溝シリガーラ流域古墓群 ぎのくわい	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63	273	宜野溝大吹原遺跡 ぎのくわい	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○
64	274	宜野溝カニクユウマスヤー跡 ぎのくわい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
65	275	宜野溝間番所跡 かみやま	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○
66	276	神山マークア遺跡 かみやま	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○
67	277	神山ウクマバカ洞穴遺跡 かみやま	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
68	278	神山カンミン遺跡 かみやま	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○
69	279	神山トゥン遺跡 かみやま	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○
70	280	神山同原遺跡 かみやま	-	-	○	○	○	○	○	○	○	④⑤⑦⑧では遺跡名が神山原遺跡
71	281	神山古集落 かみやま	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○
72	282	神山ヌースカーラ かみやま	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○
73	283	神山クシヌカーラ かみやま	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○

第4表 文献別遺跡一覧表(3)

No.	遺跡番号	遺跡名	文献									備考	
			(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)		
74	284	かみやまとくぼる 神山後原 ウシナード	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	③～⑤では遺跡名が古闘牛場
75	285	かみやまと 神山テラガマ調穴遺跡	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	①～③では遺跡名が神山テラガマ遺跡
76	286	かみやまと 神山カムニンヌタキ遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
77	287	かみやまとくぼる 神山後原丘陵古墓群	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
78	288	かみやまとくぼる 神山黒数原古墓群	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
79	291	かみやまとくぼる 赤道渡呂寒原調穴遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	
80	292	かみやまとくぼる 赤道渡呂寒原下屋取古集落	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
81	293	かみやまとくぼる 赤道渡呂寒原古墓群	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
82	294	かみやまとくぼる 赤道シキロ一流域古墓群	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
83	295	うえのとくぼる 上原同原遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	④⑤では遺跡名が上原遺跡
84	296	うえのとくぼる 上原湖原遺跡	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	
85	297	あらやすとくぼる 新城東原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
86	298	うえのとくぼる 上原仲毛原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
87	299	なかよしとくぼる 中原同原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
88	303	まごとくぼる 喜友名東原第四遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
89	304	まごとくぼる 喜友名前原第五遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
90	305	かみやまとくぼる 神山黒数原第一遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
91	306	かみやまとくぼる 神山黒数原第二遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
92	307	かみやまとくぼる 大山岳之佐久原第四遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
93	308	かみやまとくぼる 大山加良当原第三遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
94	309	かみやまとくぼる 大山加良当原第四遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
95	310	かみやまとくぼる 大山加良当原第五遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
96	311	かみやまとくぼる 大山勢頭原第四遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
97	312	かみやまとくぼる 大山勢頭原第五遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
98	313	かみやまとくぼる 大山大久保原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
99	314	かみやまとくぼる 宜野溝東原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
100	315	かみやまとくぼる 宜野溝前原第一遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
101	316	かみやまとくぼる 宜野溝前原第二遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
102	317	さよしたとくぼる 佐真下同原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
103	318	さよしたとくぼる 佐真下西原遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
104	319	いととくぼる 伊佐上原第二古墓群	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
105	320	いととくぼる 大山岳之佐久原古墓群	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
106	323	かみやまとくぼる 宜野溝並松街道	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
107	330	かみやまとくぼる 神山カムカウイ遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
108	331	かみやまとくぼる 神山ヴィームワイ遺跡	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	
109	341	さよしたとくぼる 佐真下屋取古集落	-	-	-	-	-	-	○	-	R01の新規。範囲は狭小。		
110	344	いととくぼる 伊佐上原南遺跡	-	-	-	-	-	-	-	○	-	R02に返却された。	
		普天間飛行場内道路箇所	27	34	47	55	59	102	105	105	101		



第 13 図 普天間飛行場内と周辺の遺跡

第5表 遺跡一覧表(1)

No.	遺跡番号	遺跡名	グリッド名 (グリッド)	時代			種別	面積 (m ²)	国庫補助追跡 総合・伝統	内 容	備 考	参考文献	
				先史	古墳	近世							
1 2	おだけ 野嵩タマタ原遺跡		3.4.9. 10	○	○	○	生産遺跡 (耕作関連)	17,776	○	石積み 列状ピット群 炉跡		1991a 2002b 2006b 2009b	
2 12	おだけながさくばる 野嵩長迫原古墓群		4		○	○	墓地	1,014		掘込墓等		2002b 2009b	
3 38	あらぐすくばる 新城原石器散布地		4	△			散布地	927	△	石礫		2002b 2009b	
4 40	あらぐすく 新城古集落		4.5. 10.11	△	○	○	集落跡	54,211	△	ピット 土坑 溝 地割性集落	(旧称) 新城古集落遺跡	1991a 1995a 2002b 2009b	
5 42	あらぐすく 新城シマスカー		10.19		△	○	その他の遺跡 (湧泉・井戸)	1,157	△	石積み 井戸(ミクガニ)	(別称) アラグスクガー	2009b	
6 46	あらぐすく モー 新城ウィース毛遺跡		10		△		祭祀遺跡	614			(別称) ウェーディヨー モー 40内にあり	2009b	
7 68	きゆなめーばる 喜友名前原第二遺跡		15.16. 24.25	○	○		集落跡	21,345	○	壁穴住居 掘建柱建物群		2002b 2002d 2006a 2009b	
8 69	きゆなめーばる 喜友名前原第三遺跡		14	○	○	○	生産遺跡 (耕作関連)	25,055	○	△	追地の耕作跡		2002b 2002d 2006a 2009b 2013
9 70	きゆなあがりばる 喜友名東原第二遺跡		14.22. 23	△	△	△	不明	23,389	△	△			2002b 2002d 2009b 2014a
10 71	きゆなあがりばる 喜友名東原第三遺跡		13.14	○	○		生産遺跡 (耕作関連)	26,230	△	△	追地の耕作跡		2002b 2002d 2009b 2013
11 72	きゆな 喜友名アジミー洞穴遺跡		23	○			貝塚 洞穴遺跡	1,328	○	○		発見ドリー内 に貝塚あり	1982a 1989 1991a 2002b 2013
12 80	きゆな 喜友名ウフシー遺跡		15		△		散布地	8,773	△				1989 1991a 2002b 2009b
13 81	きゆなめーばる 喜友名前原第四遺跡		15.16	○			集落跡	15,273	○	△	ピット		2004a 2009b

第5表 遺跡一覧表(2)

No.	遺跡 番号	遺跡名	グリット名 (GTT)	時代			種別	面積 (m ²)	国庫補助差持 施設	内 容	備 考	参考 文献	
				先史	古墳	近世							
14	88	きぬなみーばる 喜友名前原第二古墓群	14.15. 24	○	○	○	墓地	79,983	○	○	△	亀甲墓 撫込墓等	2006a 2009b
15	93	いさういーばる 伊佐上原第一遺跡	7.8. 15.16	○	○	○	集落跡	11,544	○	△	ピット群 石列	飛調査ブロック 2相当 (旧称) 伊佐上原遺跡群 A地点	1989 1991a 2002b 2004a 2009b
16	98 99	いさういーばる 伊佐上原第三遺跡	15.16	○			集落跡	41,511	○			飛調査ブロック 3相当	2004a 2009b
17	100	いさういーばる 伊佐上原第四道路	16	△	△	△	不明	2,107	○			飛調査ブロック 6相当	2004a 2009b
18	101	いさ 伊佐ケレンケレンガマ洞穴遺跡	15.16	△		○	洞穴道路 戦争道路	973	○			避難塹 (旧称) 伊佐上原第二洞 穴道路	2009b
19	102	いさういーばる 伊佐上原東方遺跡	7.15	△			散布地	1,672	○				1982a 1989 1991a 2002b 2009b
20	118	いさういーばる 伊佐上原第一古墓群	7.8.16		○		墓地	35,476	△	△	亀甲墓 平葬墓等	1809(嘉慶14) 1821(道光元)年 銘の辯子甕あり	1989 2002b 2006a 2009b
21	120	ひむやまたまんきくーばる 大山岳之佐久原第一洞穴遺跡	16	△	○	○	洞穴道路 墓地 戦争道路	1,863	○			横穴洞穴 開口部の古墓 避難塹	1989 1991a 2002b 2009b
22	121	ひむやまたまんきくーばる 大山岳之佐久原第一遺跡	16.17	○	○	○	生産道路 (耕作閑道)	20,518	○		ピット群 切跡 石列 埴上面 圓だまり	(旧称)大山岳之 佐久原北方道路 飛調査ブロック 9相当	1991a 1995a 2002b 2004a 2009b
23	122	ひむやまたまんきくーばる 大山岳之佐久原第二遺跡	17.26	△			散布地	5,803	○			(旧称) 大山岳之佐久原 南方道路	1989 1991a 2002b 2004a 2009b
24	123	ひむやまたまんきくーばる 大山岳之佐久原第三遺跡	16.17	△			不明	19,483		△			2002b 2009b
25	124	ひむやまからーばる 大山加良当原第一遺跡	37	△	△	△	不明	1,575				(旧称) 大山加良当原南 方遺物散布地	1989 1991a 2002b 2009b
26	126	ひむやま 大山ウフォーアップ遺物散布地	26.27	△			洞穴道路	7,203	△		横穴洞穴	(旧称) ウフォーアップ	1982a 1989 1991a 2002b 2009b

第5表 遺跡一覧表(3)

No.	遺跡番号	遺跡名	グリット名 (アラ)	時代			種別	面積 (m ²)	国庫補助追跡 総合・試験・確認	内 容	備 考	参考文献
				先史	古墳	近世						
27	128	おおやまをくへくばる 大山芋久保原第三遺跡	38	△	○	○	不明	17,188	○	石積み ピット		2002d
28	130	おおやましーるばる 大山勢頭原第二遺跡	39.48	○			集落跡 墓地	24,124	△	竪穴住居 ピット	(旧称) 大山第三洞穴遺 跡	1989 1991a 2002b 2009b
29	131	おおやましーるばる 大山勢頭原第三遺跡	37.46, 47.56	△	○	○	生産遺跡 (耕作閑地)	36,990	○	ピット		2002b 2002d 2014a
30	132	おおやまとうわいばる 大山富盛原第一遺跡	48.49	○			散布地	12,365	△		(旧称) 大山富盛原北方 道路	1991a 1996a 2002b 2009b
31	134	おおやまとうわいばる 大山富盛原第二遺跡	48.49, 57.58	○			集落跡	12,491	○	竪穴住居 土坑 屋外焼土	(旧称) 大山富盛原南方 道路	1991a 2002b 2006a 2009b
32	135	おおやまとうわいばる 大山富盛原第三遺跡	57.58	△			散布地	25,229	△			2002b 2002d 2009b
33	145	おおやまとうへくばる 大山芋久保原第二遺跡	26.27, 37.38	○			集落跡	67,011	○	ピット	県調査ブロック 10相当	2002b 2002d 2004a 2009b
34	146	おおやま 大山チャシグスク遺跡	27.38	△	△		散布地	15,738	△			1989 1991a 2002b 2002d 2009b
35	156	おおやまとうほうきゅうりょう 大山東方丘陵古墓群	16.17, 26~28, 36~39, 45.46, 48	○	○		墓地	332,961	△	亀甲墓 掘込墓等	1699年(康熙 32) 路の墓仕 立あり	1989 1991a 2002b 2006a 2009b 2014a
36	159	ましきとうわいばる 真志喜富盛原第一遺跡	58.59	△			散布地	23,922	△			1989 2002b 2009b
37	204	おおじゆなくくへいばる 大瀬名草花原第一遺跡	67.68	○	○	○	散布地 生産遺跡 (耕作閑地)	11,670	○	ピット群 溝		2006a 2009b
38	205	おおじゆなくくへいばる 大瀬名久永地原遺物散布地	74	△			散布地	15,372				1982a 1989 1991a 2002b 2009b
39	206	おおじゆなくくへいばる 大瀬名草花原第二遺跡	67.68, 74	○	○	○	散布地 生産遺跡 (耕作閑地)	5,845	○	列状ピット群 区画溝		2006a 2009b

第5表 遺跡一覧表(4)

No.	遺跡番号	遺跡名	グリッド名 (ワケ)	時代 先史 古墳 近世 近代	種別	面積 (m ²)	国庫補助差持 調査 試験 確認	内 容	備 考	参考文献	
40	218	お由じやいくいばなばる 大財名久原古墓群	67.73, 74.78	○ ○	墓地	75,748	△	亀甲墓等		2002b 2009b	
41	219	お由じやなくいばなばる 大財名久永地原第一古墓群	74.75, 79.80	○ ○	墓地	26,764		亀甲墓等		2002b 2009b	
42	257	おのわんめいばる 宜野湾前原第一遺物散布地	71	△	散布地	2,041	△		(旧称) 宜野湾前原石器 散布地	2004a 2009b	
43	258	おのわんめいばる 宜野湾前原第二遺物散布地	64	△	散布地	2,266				2009b	
44	259	おのわん 宜野湾クシヌタキ遺跡	61.62	○ ○ ○	集落跡 祭祀遺跡	15,219	△	瓶立柱建物跡 角砂利敷遺構 石列 土坑 石祠		1982a 1991a 1994b 1997a 2002b 2009b	
45	261	おのわん 宜野湾古集落	53.54, 61.62, 63.64, 70	○ ○	集落跡	186,147	△	地割性集落	(旧称) 宜野湾古集落遺 跡	2002b 2004a 2009b 2017	
46	262	おのわん 宜野湾ヌールガーデン	61		△	その他の遺跡 (湯泉・拌所)	1,173				2009b
47	263	おのわん 宜野湾サクスカー	62.63		△	その他の遺跡 (湯泉・拌所)	902			(別称) マーンサクガマ	2009b
48	264	おのわん 宜野湾メースカー	63		△ ○	その他の遺跡 (湯泉・拌所)	1,142	△	石積み 井戸(ムラガード)	(別称) ウブガー	1994d 2003 2009b
49	265	おのわん 宜野湾馬場跡	54.63, 64		△	その他の遺跡	6,146			(旧称)宜野湾馬 場跡 (別称) ジノーンババ	2009b
50	266	おのわん 宜野湾メースウタキ遺跡	63		△	祭祀遺跡	582	△			2009b
51	267	おのわん 宜野湾ウタキグワーチ遺跡	63		△	祭祀遺跡	582			(別称) ナカヌウタキ	2009b
52	268	おのわん 宜野湾トゥン遺跡	62		△	祭祀遺跡	555				2009b

第5表 遺跡一覧表(5)

No.	遺跡番号	遺跡名	グリッド名 (グリッド)	時代			種別	面積 (m ²)	国庫補助追跡 総合・試験・確認	内 容	備 考	参考文献	
				先史	古墳	近世							
53	271	まのわん どくらう 宜野湾ノロ殿内遺跡		62		△	祭祀遺跡	555			(別称) 宜野湾ヌンドゥ ンチ	2009b	
54	272	まのわん 宜野湾シリガーラ流域古墓群		44.45, 52.53, 54.61, 62		○ ○	墓地	161,931	○ △	龜甲墓 破風墓 振込墓等	(旧称) 宜野湾・神山シリガーラ流域古 墓群	1991a 2002b 2007a 2009b 2017	
55	273	まのわんかーごちばる 宜野湾大吹原遺跡		64.71	○	△	生産遺跡 (耕作関連)	17,962	△ △	ピット群		2004a 2009b	
56	274	まのわん 宜野湾カニクエーウマヌヤー路		61		△	生産遺跡 (鍛冶関連?)	718		横穴洞穴		2009b	
57	275	まのわんまだり 宜野湾時間切番所跡		54		△	その他の遺跡	723				2009b	
58	276	かみやま 神山マークー遺跡		41.42	△		散布地	564			(別称) マークーヤマ	2002b 2009b	
59	277	かみやま 神山ウタマバカ洞穴道路		42	△	○ ○	洞穴道路 墓地	855	△	洞穴墓	1705(康熙44)年 路の扇子裏あり	1982a 1989 1991a 2002b 2009b	
60	278	かみやま 神山カンミン遺跡		51.52	△	△	散布地	3,903	△		口伝あり	1989 2002b 2009b	
61	279	かみやま 神山トゥン遺跡		42		△ △	○	集落跡 祭祀遺跡	5,597	○	石積み	口伝あり	2002b 2004b 2009b
62	280	かみやまどーぱる 神山岡原遺跡		42.51	△	○	生産遺跡 (鍛冶関連等)	6,577	○ △	東 鉄滓	(旧称) 神山原遺跡	2002b 2008 2009b	
63	281	かみやま 神山古集落		42.43, 51.52	△	△ ○	集落跡	46,001	○	溝状遺構 ピット群 畝間状遺構 地割性集落	(旧称) 神山古集落遺跡	2002b 2005 2009b 2019	
64	282	かみやま 神山メースカー		52		△ △	○	その他の遺跡 (湧泉・拌所)	1,192				2009b
65	283	かみやま 神山クシスカー		51		△ △	○	その他の道路 (湧泉・拌所)	661	○			2009b

第5表 遺跡一覧表(6)

No.	遺跡番号	遺跡名	マップ名 (図番)	時代			種別	面積 (m ²)	国庫補助進捗 総合 評議 通過	内 容	備 考	参考文献
				先史	古墳	近世						
66	284	かみやまくじばる 神山後原ウシナー跡	42			○	その他の遺跡 (圓牛場)	1,018	○ △	土手 広場	(旧称) 神山後原ウシ ナー圓牛場跡	2008
67	285	かみやま 神山タガマ洞穴遺跡	42.51		○	○	洞穴遺跡 祭祀遺跡	4,408	○ △	線刻石版		1991a 2002b 2008 2009b
68	286	かみやま 神山カンミニヌウタキ遺跡	51.52		△	△	祭祀遺跡	661	○			2009b
69	287	かみやまくじばる 神山後原丘陵古墓群	41.42, 50.51		○	○	墓地	62,203	○	亀甲墓 破風墓 掘込墓等		1989 1991a 2002b 2009b 2017
70	288	かみやまとくるすーぱる 神山黒数原古墓群	23.24, 25.34, 35.36		○	○	墓地	117,765	△ △	亀甲墓 掘込墓等		2009b 2002b 2004b 2013 2014a 2015
71	291	あかみちとくらがんばる 赤道渡呂寒原洞穴遺跡	41	△		○	洞穴遺跡 墓地	654	○ △	岩陰墓	(旧称) 神山後原洞穴遺 跡	1991a 2002b 2007a 2009b
72	292	あかみちとくらがんばる 赤道渡呂寒原屋取古集落	41		○	○	集落跡	5,117	○ △	屋敷跡 井戸	(旧称) 赤道渡呂寒原屋 取古集落遺跡	2007a 2009b
73	293	あかみちとくらがんばる 赤道渡呂寒原古墓群	32.33, 41.42		○	○	墓地	75,313	△	亀甲墓 掘込墓等	1736(寛正14) 1758(乾隆23)年 銘の厨子甕あり	1989 1991a 2002b 2009b 2017
74	294	あかみち 赤道シキロー流域古墓群	31.32, 40.41		○	○	墓地	20,465	△	掘込墓 亀甲墓等	乾隆年間の厨子 甕あり	1989 1991a 2002b 2009b 2017
75	295	うえはらびーりばる 上原同原遺跡	19		○	○	生産遺跡 (鍛冶・耕作 開道)	21,616	○ ○	鍛冶開連廻葉土 坑 溝 ピット群		1991a 1992 2002b 2006b 2009b
76	296	うえはらぬーりばる 上原瀬原遺跡	6.12	○	○	○	生産遺跡 (耕作開道)	36,453	△ △	畝間状溝列 用水池 焼土面 土坑		1991a 1995b 2002b 2009b 2013
77	297	あらぐすくあがりばる 新成東原遺跡	10.19		○		集落跡	27,279	○	柱穴群 ピット群 土坑	(旧称) 上原東原遺跡	2006b 2009b
78	298	うえはらなかもーばる 上原仲毛原遺跡	19.20, 30.31		○		生産遺跡 (耕作開道)	44,599	○	ピット (植栽痕?)		2006b 2009b

第5表 遺跡一覧表(7)

No.	遺跡番号	遺跡名	プロット名 (図#)	時代			種別	面積 (m ²)	国庫補助済 総面 認定 確認	内 容	備 考	参考文献
				先史	古墳	近世						
79	299	なかばらごーばる 中原原遺跡	20,30, 31	○			生産遺跡 (耕作関連)	58,869	○	ピット (植栽痕?)		2006b 2009b
80	303	きなながりばる 喜友名東原第四遺跡	14	○			散布地	1,121	○ △		県調査II区ブ ロック1相当	2004a
81	304	きなめーばる 喜友名前原第五遺跡	14,15, 23,24	○			不明	17,331	○	ピット		2002d
82	305	かみやまくるすーばる 神山黒数原第一遺跡	24	△			不明	1,241	○			2014a
83	306	かみやまくるすーばる 神山黒数原第二遺跡	24,25	○ △ ○			生産遺跡 (耕作関連)	1,241	○			2014a
84	307	おおやまときんぐーばる 大山岳之佐久原第四遺跡	25,26	△ ○			不明	25,245	○	ピット 溝 石列		2002d
85	308	おおやまからくーばる 大山加良当原第三遺跡	36		○		不明	1,705	△	石積み		2002d
86	309	おおやまからくーばる 大山加良当原第四遺跡	36	○ ○ ○ ○	○		生産遺跡 (耕作関連)	16,345	△ △	ピット 溝	上原灘原遺跡 (遺跡番号296)と 同様の堆積がみ られる。	2010c 2012a 2014a 2015
87	310	おおやまからくーばる 大山加良当原第五遺跡	37		○		不明	1,705	○			2002d
88	311	おおやましーるばる 大山勢頭原第四遺跡	38,39	△ ○			不明	16,737	○	溝		2002d
89	312	おおやましーるばる 大山勢頭原第五遺跡	47,48	△ △			不明	3,622	△			2002d
90	313	おおやまうふくじーばる 大山大久保原遺跡	48,57	△	○		不明	24,184	△	ピット		2002d
91	314	さのわんあがりばる 宜野湾東原遺跡	70	△ △ △			生産遺跡 (耕作関連)	12,314	△	耕作跡	県調査I区ブ ロック6相当	2004a

第5表 遺跡一覧表(8)

No.	遺跡番号	遺跡名	マッピング GPR	時代			種別	面積 (m ²)	国庫補助進捗 調査 試験 調査	内 容	備 考	参考文献
				先史	古墳	近世						
92	315	宮のわんばーばる 宜野湾原第一遺跡	71	△	△	△	生産遺跡 (耕作閑地)	676	△	耕作跡	県調査I区ブロック5相当	2004a
93	316	宮のわんばーばる 宜野湾原第二遺跡	71	△	△	△	生産遺跡 (耕作閑地)	766	△	耕作跡	県調査I区ブロック4相当	2004a
94	317	きましたびーばる 佐真下原道路	72	△	△	△	生産遺跡 (耕作閑地)	1,562	△	耕作跡	県調査I区ブロック2相当	2004a
95	318	きましといばる 佐真下西原道路	72.77, 78	△	△	△	生産遺跡 (耕作閑地)	4,278	△	耕作跡	県調査I区ブロック1相当	2004a
96	319	いさうーばる 伊佐上原第二古墓群	15.16	○	○	墓地		12,397	○	○	ドリーネ内土坑 群 龟甲墓 瓶込墓	2006a
97	320	和田中またまくさくーばる 大山街之佐久原古墓群	17.25, 26	○	○	墓地		10,544	○	△	岩陰墓 瓶込墓	2006a
98	323	宮のわんなんまちかいどう 宜野湾並松街道			○	宿道、公道	-					2014b 2020a
99	330	かみやま 神山アカムワイ遺跡	43.52		○	祭祀場跡?		759				2014b 2020a
100	331	かみやま 神山ヴィームウイ遺跡	52		○	祭祀場跡?		759				2014b 2020a
101	344	いさうーばる 伊佐上原道路	7.8, 15.16	○	○	集落跡 生産遺跡 祭祀遺跡 (御嶽等)		62,201	○	△		2020b

<凡例>

- 遺跡一覧表は、2010『普天間飛行場内遺跡地図（中間報告）』に掲載された遺跡一覧表に加筆・修正して作成した。
- No.は、普天間飛行場内の遺跡に付けた通し番号である。
- 遺跡番号は、宜野湾市教育委員会が使用している遺跡番号を示した。
- 時代の「先史」とは先史時代(12世紀前半以前)、「グスク」とはグスク時代(12世紀後半以降)の略である。記号については次のとおり。

○…遺構・遺物包含層を確認

○…遺物包含層を確認

△…遺物散布等がみられるが詳細は不明

5 面積の数値は、目安である。

6 国庫補助進捗の項目は、平成11年度から文化庁より国庫補助を受けて実施している調査の実績を示している。

○…実施済み △…一部実施済み

7 参考文献は、巻末の引用・参考文献と対応する。

第3章 基本層序

第1節 これまでの成果

分層の考え方は、基本的に沖縄県も宜野湾市も共通しているが、層序名の付け方が異なっている。そこでこれまでの調査で使用してきた層序について、発掘調査報告書ごとに振り返る。

- ①『基地内文化財III』(2004年)
- ②『基地内文化財IV』(2006年)
- ③『基地内文化財5』(2011年)
- ④『基地内文化財6』(2014年)
- ⑤『基地内文化財7』(2015年)
- ⑥『基地内埋蔵文化財調査報告書I』(2005年)
- ⑦『基地内埋蔵文化財調査報告書II』(2006年)
- ⑧『基地内埋蔵文化財調査報告書V』(2009年)
- ⑨『基地内埋蔵文化財調査報告書6』(2013年)

まずは沖縄県が設定した層序を見していく。

①では、I層からVII層までの7層に分かれている。このうちI～IV層までが現代～繩文時代後期までの遺物包含層、V～VII層が基盤層（マージ、石灰岩、クチャ）である。特に遺物包含層については、土が堆積した当時の環境の差に由来して土色が異なるとし、さらに3つに細分された。

②では、①と同様にI層からVI層までの6層に分かれている。

③では、②と同じくI層からVI層までの6層に分かれている。基本的な考え方は①・②と同じである。III層（近世・グスク時代）、IV層（繩文時代後・晚期）、V層（マージ）については、色調・土質により細分されている。また、宜野湾市の層序との対応関係についても触れている。

④では、暫定的に第I期層から第VI期層までの6層に分けられている。第I期層から第V期層までが現代から繩文時代後晚期の遺物包含層で、第VI期層がマージである。

⑤では、I層からVI層までの6層に分けられて

いる。I～IV層が現代～繩文時代後晚期の遺物包含層で、V・VI層がマージ・石灰岩である。また、時期や色調により細分し、宜野湾市の層序との対応関係についても触れている。

次に、宜野湾市が設定した層序を見ていく。

⑥では、I層からX層までの10層に分かれている。このうちI・II層が現代～近世以前の遺物包含層で、III～X層が基盤層（マージ、石灰岩、クチャ）である。

⑦では、⑥と同様にI層からX層までの10層に分かれている。そしてII層について、戦前～古代までを時代別に4つの層（ユニット①～④）に細分している。

⑧では、⑦と同様にI層からX層までの10層に分かれている。II層については、上原瀬原遺跡の試掘調査成果を加味して、5つの層（ユニット①～⑤）に細分している。

⑨では、⑧と同じ層序となっている。

宜野湾市は、II層を時期別に細分する際、「ユニット」という名称を使っている。また、試掘調査開始当初から一貫してI層～X層を基本層序としている。さらに、マージをIII層～VII層に細分し、旧地形の復元や埋蔵文化財包蔵地の推定を試みている。

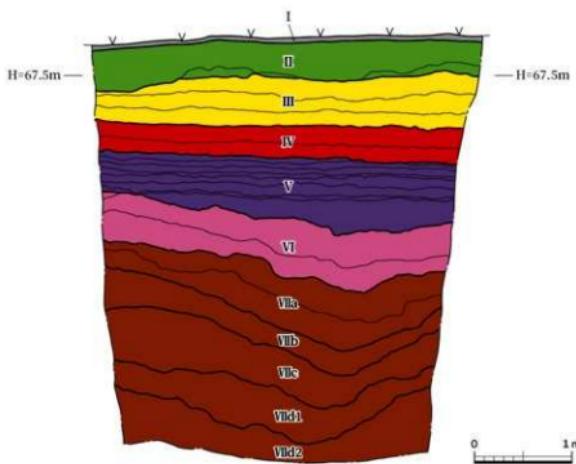
第2節 統一層序

今回、『基地内文化財9』を取りまとめるにあたり、沖縄県と宜野湾市がそれぞれ使用してきた層序について統一し、試掘成果について理解しやすくし、今後の調査に備えることを目指した。

層序を統一するに当たっては、沖縄県と宜野湾市の担当者間で、層序名の付け方などについて議論した。特に宜野湾市のユニット⑤については、谷部に限定して堆積しており、時期についても検討の余地があるなど課題もあるため、今回の統一層序はあくまで暫定的なものとする。そのため、今後の調査成果によっては、より良い層序に変更する可能性もある。



図版3 フテ13-E2-ナ南壁



第14図 フテ13-E2-ナ南壁 土層図

第6表 各報告書の層序一覧表

井澤原「盆地内文化財群」				
名称	時代	色調	土質	主要人物など
I層	近世	褐色	砂質シルト	古上・盆地造成に伴う盛土。
II層	盆地造成前	褐色	砂質シルト	盆地造成前の田畠上・耕作土。
III層	近世～ダスク時代	褐色	砂質シルト	盆地造成前の田畠上。
IV層	盆地造成中層	褐色	砂質シルト	盆地造成中の田畠上。
V層	盆地造成後	褐色	砂質シルト	盆地造成後の田畠上。
VI層	盆地造成後	褐色	砂質シルト	盆地造成後の田畠上。

井澤原「盆地内文化財群」

名称	時代	色調	土質	主要人物など	解説
I層	概抜	黃褐色～褐色	シルト土体だが、下層は細め～細緻砂質シルト。	古上・盆地造成に伴う盛土。	
II層	盆地造成前	黃褐色～褐色	シルト土体だが、下層は細め～細緻砂質シルト。	古上・盆地造成に伴う盛土。	
III層	近世～ダスク時代	にがい・黃褐色～暗褐色	シルト土体だが、表面は暗く、しまりが悪い。		
IV層	盆地造成中層	暗褐色～深褐色	シルト土体だが、表面質が小さく、表面より例方で凹む感じがいい。		
V層	盆地造成後	黃褐色～明褐色	粘土からシルトが主体。		焼成石器岩の風化上、島尻マージ。
VI層	盆地造成後	褐色	シルト～細砂		石灰岩の岩盤。宜野湾市の埋層に対応。

井澤原「盆地内文化財群」

名称	時代	色調	土質	主要人物など	解説
I層	概抜	褐色	シルト		古上・盛土。
II層	盆地造成前	にがい・黃褐色～暗褐色	シルト		古上・盆地造成に伴う盛土。
III層	近世～ダスク時代	にがい・黃褐色～暗褐色	シルト	II層より色調が暗く、しまりが悪い。	
IV-A層	近世	褐色	シルト		人為および自然堆積層。
IV-B層	近世	褐色	シルト		人為および自然堆積層。
IV-C層	近世	褐色	シルト		人為および自然堆積層。
IV層	通文時代後～後期	褐色	シルト		自然堆積層。
IV-A層	通文時代後～後期	褐色	シルト		厚さ2.1mほどある層分りあり、泥水などによる堆積層。浜辺市日置川ヒート付近に土・色調が類似。
IV-B層	通文時代後～後期	褐色	シルト～細砂	IV-A層よりもかなり細っぽい。	
V層	概抜	褐色	シルト～細砂	IV-A層よりもかなり細っぽい。	
VI-A層	河原地～低地	褐色	シルト	マンガン斑が多い。	宜野湾市日置川ヒート付近。
VI-B層	河原地	褐色	シルト		宜野湾市日置川ヒート付近。
VI-C層	河原地～低地	褐色	砂質シルト		宜野湾市日置川ヒート付近。
VI-D層	河原地～低地	褐色	粘土～シルト	ケチャブコックや風化した石炭遺物が多く。	宜野湾市の埋層に対応。
VI層	概抜	褐色～黄褐色	シルト		石灰岩の岩盤。宜野湾市の埋層に対応。

井澤原「盆地内文化財群」

名称	時代	色調	土質	主要人物など	解説
I層	概抜	褐色～黒褐色	褐色など		古上・原上。
II層	盆地造成前	褐色～灰褐色	砂質シルト	大量の腐物・堆土。	耕作土。
III層	近世～低地	褐色～灰褐色	砂質シルト	大量の腐物・堆土。	耕作土。
IV層	概抜	褐色	シルト	しまりの悪いシルト	堆積よりしまりが悪い。
V層	ダスク時代	褐色	シルト		
VI層	近世～低地	褐色	シルト	マングニン斑が多い。	宜野湾市日置川ヒート付近。
VI-B層	近世	褐色	シルト		宜野湾市日置川ヒート付近。
VI-C層	近世	褐色	砂質シルト		宜野湾市日置川ヒート付近。
VI-D層	近世	褐色	粘土～シルト	ケチャブコックや風化した石炭遺物が多く。	宜野湾市の埋層に対応。
VI層	概抜	褐色～黄褐色	シルト		石灰岩の岩盤。宜野湾市の埋層に対応。

井澤原「盆地内文化財群」

名称	時代	色調	土質	主要人物など	解説
I層	近代	褐色	相粒シルト	石炭前縁。堆上堆。炭多く含む。	古上・原上。
II層	近代～現代	褐色	シルト		耕作土。
III層	近代～現代	褐色	シルト		盆地造成前。
IV層	近代～現代	褐色	シルト		盆地造成前。
IV-1層	近代～現代	褐色	シルト		盆地造成前。
IV-2層	近代～現代	褐色	シルト		盆地造成前。
IV-3層	近代～現代	褐色	シルト		盆地造成前。
IV層	通文時代後～後期	褐色	オリーブ褐色		2次堆積層。宜野湾市日置川ヒート付近に相当。
IV-1層	通文時代後～後期	褐色	シルト		
IV-2層	通文時代後～後期	褐色	シルト		
IV-3層	通文時代後～後期	褐色	シルト		
V層	近代	褐色	シルト		島尻マージ。
VI層	近代	褐色	相粒石炭岩		島尻マージ。地山。宜野湾市の層V層に相当。

宜野湾市「盆地内地質文化財群」

名称	時代	色調	土質	主要人物など	解説
I層	近代	褐色	シルト	近代以前の遺物。	盛土・未成層・廃棄層。
II層	～現代	褐色	シルト		盆地造成前の田畠上・古田耕作土。
III層	概原生～盆地造成後	褐色	砂質シルト	盆地造成前の田畠上。	盆地造成前の田畠上・古田耕作土。
IV層	近世～現代	褐色	砂質シルト	盆地造成前の田畠上。	盆地造成前の田畠上。
IV-1層	近世	褐色	砂質シルト	盆地造成前の田畠上。	盆地造成前の田畠上。
IV-2層	近世	褐色	砂質シルト	盆地造成前の田畠上。	盆地造成前の田畠上。
IV-3層	近世	褐色	砂質シルト	盆地造成前の田畠上。	盆地造成前の田畠上。
IV層	ダスク時代	褐色	砂質シルト～シルト	しまりの悪いシルト。	耕作土。
IV-1層	ダスク時代初期	褐色	シルト～粘土質シルト	しまりの悪いシルト。	耕作土。
IV-2層	ダスク時代中期～其後	褐色	砂質シルト	しまりの悪いシルト。	耕作土。
IV-3層	ダスク時代中期～其後	褐色	砂質シルト	しまりの悪いシルト。	耕作土。
IV層	明治時代（褐色）	褐色	砂質シルト	マングニン斑。	マングニン斑。
IV-1層	明治時代（褐色）	褐色	砂質シルト	マングニン斑。	マングニン斑。
IV-2層	明治時代（褐色）	褐色	砂質シルト	マングニン斑。	マングニン斑。
IV-3層	明治時代（褐色）	褐色	砂質シルト	マングニン斑。	マングニン斑。
V層	明治時代（明褐色）	褐色	砂質シルト	マングニン斑。	地山。
VI層	明治時代	褐色	砂質シルト	島尻。	地山。
VI-B層	明治時代	褐色	砂質シルト	島尻。	地山。
VI-C層	明治時代	褐色	砂質シルト	島尻。	地山。
VI層	明治時代	褐色	砂質シルト	島尻。	地山。
VI-1層	明治時代	褐色	砂質シルト	島尻。	地山。
VI-2層	明治時代	褐色	砂質シルト	島尻。	地山。
VI-3層	明治時代	褐色	砂質シルト	島尻。	地山。
VI層	明治時代	褐色	砂質シルト	島尻。	地山。
VI-1層	明治時代	褐色	砂質シルト	島尻。	地山。
VI-2層	明治時代	褐色	砂質シルト	島尻。	地山。
VI-3層	明治時代	褐色	砂質シルト	島尻。	地山。

第7表 統一層序一覧表

統一層序		時代	解説	土の色・質	流入物など	範囲 ○色	Ⅲ・Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	Ⅹ
Ⅰ番	現代 基盤造成後	表土、塊生層				Ⅰ層	Ⅰ層	第1期層	Ⅰ-2層	Ⅰ層	Ⅰ層	Ⅰ層	Ⅰ層
Ⅱ番	現代 基盤造成時 耕作地土は基盤造成後)	基礎造成土	褐色 石質シルト			Ⅰ層	Ⅰ層	第1期層	Ⅰ-2層	Ⅰ層	Ⅰ層	Ⅰ層	Ⅰ層
Ⅲ番	近世	耕作土など	耕作土など 褐色～灰褐色 石質シルト			Ⅱ層	Ⅱ層	第II期層	Ⅱ-1層	Ⅱ層	Ⅱ層	Ⅱ層	Ⅱ層
Ⅳ番	グスク時代	耕作土など	褐色～黒灰色 石質シルト～シルト			Ⅲ層	Ⅲ層	第III期層	Ⅲ-2層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層	Ⅲ層
Ⅴ番	古代～曙光時代初期	耕作土など	褐色～灰褐色～黒褐色 粘土質～粘土質シルト			Ⅳ層	Ⅳ層	第IV期層	Ⅳ-1層	Ⅳ層	Ⅳ層	Ⅳ層	Ⅳ層
Ⅵ番	曙光時代後～曉期	谷への堆積土など 耕作土など	褐色 石質シルト			Ⅴ層	Ⅴ層	第V期層	Ⅴ層	Ⅴ層	Ⅴ層	Ⅴ層	Ⅴ層
Ⅶ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			Ⅵ層	Ⅵ層	第VI期層	Ⅵ層	Ⅵ層	Ⅵ層	Ⅵ層	Ⅵ層
Ⅷ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			Ⅶ層	Ⅶ層	第VII期層	Ⅶ層	Ⅶ層	Ⅶ層	Ⅶ層	Ⅶ層
Ⅸ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			Ⅷ層	Ⅷ層	第VIII期層	Ⅷ層	Ⅷ層	Ⅷ層	Ⅷ層	Ⅷ層
Ⅹ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			Ⅸ層	Ⅸ層	第IX期層	Ⅸ層	Ⅸ層	Ⅸ層	Ⅸ層	Ⅸ層
Ⅺ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			Ⅹ層	Ⅹ層	第X期層	Ⅹ層	Ⅹ層	Ⅹ層	Ⅹ層	Ⅹ層
Ⅻ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			Ⅺ層	Ⅺ層	第XI期層	Ⅺ層	Ⅺ層	Ⅺ層	Ⅺ層	Ⅺ層
Ⅼ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			Ⅻ層	Ⅻ層	第XII期層	Ⅻ層	Ⅻ層	Ⅻ層	Ⅻ層	Ⅻ層
Ⅽ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			Ⅼ層	Ⅼ層	第XIII期層	Ⅼ層	Ⅼ層	Ⅼ層	Ⅼ層	Ⅼ層
Ⅾ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			Ⅽ層	Ⅽ層	第XIV期層	Ⅽ層	Ⅽ層	Ⅽ層	Ⅽ層	Ⅽ層
Ⅿ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			Ⅾ層	Ⅾ層	第XV期層	Ⅾ層	Ⅾ層	Ⅾ層	Ⅾ層	Ⅾ層
ⅰ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			Ⅿ層	Ⅿ層	第XVI期層	Ⅿ層	Ⅿ層	Ⅿ層	Ⅿ層	Ⅿ層
ⅰ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			ⅰ層	ⅰ層	第XVII期層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層
ⅰ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			ⅰ層	ⅰ層	第XVIII期層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層
ⅰ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			ⅰ層	ⅰ層	第XIX期層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層
ⅰ番	マージ		褐色 石質褐色(褐色) 石質シルト			ⅰ層	ⅰ層	第XX期層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層	ⅰ層

第4章 試掘調査

第1節 調査成果の概要

平成 11 年度から平成 22 年度に沖縄県と宜野湾市が調査した試掘坑の合計は、1,850 か所である。年度別・グリッド別の試掘坑の数は、一覧表のとおりである。

試掘調査によって新たに発見された遺跡数は、23 遺跡である。まず、沖縄県が平成 11 年度から平成 20 年度に実施した試掘調査により、大謝名軍花原第一遺跡、大謝名軍花原第二遺跡の 2 遺跡が新たに発見された。

つぎに、宜野湾市が平成 13 年度から平成 22 年度に実施した試掘調査により、新城東原遺跡、上原仲毛原遺跡、中原同原遺跡、喜友名前原第四遺跡、喜友名前原第五遺跡、神山黒数原第一遺跡、神山黒数原第二遺跡、大山岳之佐久原第四遺跡、大山加良当原第三遺跡、大山加良当原第四遺跡、大山加良当原第五遺跡、大山勢頭原第四遺跡、大山勢頭原第五遺跡、大山久保原遺跡、宜野湾東原遺跡、宜野湾前原第一遺跡、宜野湾前原第二遺跡、佐真下同原遺跡、佐真下西原遺跡、伊佐上原第二古墓群、大山岳之佐久原古墓群の 21 遺跡が新たに発見された。

沖縄県と宜野湾市が行った試掘調査の成果について、次の 8 冊の報告書に掲載されている。

- ①『基地内文化財 II』(2002 年)
- ②『基地内文化財 III』(2004 年)
- ③『基地内文化財 IV』(2006 年)
- ④『基地内文化財 6』(2014 年)
- ⑤『基地内埋蔵文化財調査報告書 I』(2005 年)
- ⑥『基地内埋蔵文化財調査報告書 II』(2006 年)
- ⑦『基地内埋蔵文化財調査報告書 V』(2009 年)
- ⑧『基地内埋蔵文化財調査報告書 6』(2013 年)

①では、沖縄県が平成 11 ~ 13 年度に実施した 378 か所の試掘成果が報告された。

②では、沖縄県が平成 14 ~ 15 年度に実施した 369 か所の試掘成果が報告された。77-15-D9-アでは、縄文時代晚期の竪穴住居跡が 2 基検出された。

77-16-I5-7 では、マージの最下層から獸骨片が出土した。77-26-B4-ナでは、弥生~平安併行時代の土器が多く出土した。

③では、沖縄県が平成 15 ~ 16 年度に実施した 100 か所の試掘成果が報告された。

④では、沖縄県が平成 18 ~ 20 年度に実施した 181 か所の試掘成果が報告された。77-24-C6-サと 77-24-D6-アでは、黒曜石が出土した。77-24-G4-7 と 77-36-B1-7 では、造成土で埋められた墓が検出された。

⑤では、宜野湾市が平成 13 ~ 14 年度に実施した 589 か所の試掘成果が報告された。試掘調査成果に基づく旧地形の考察や、島尻マージの土壌分析などの成果も報告された。

⑥では、宜野湾市が平成 17 年度に実施した 74 か所の試掘成果が報告された。

⑦では、宜野湾市が平成 18 ~ 19 年度に実施した 69 か所の試掘成果が報告された。77-6-I4-アでは、深さ約 1.2 m で断面が 4 段の階段状となる、大型の土坑が検出された。この土坑はグスク時代の遺構で、さらに下層からは、縄文時代晚期の炭だまりが検出された。

⑧では、宜野湾市が平成 21 ~ 22 年度に実施した 90 か所の試掘成果が報告された。基盤層の堆積状況や標高から、旧地形の復元が行われた。

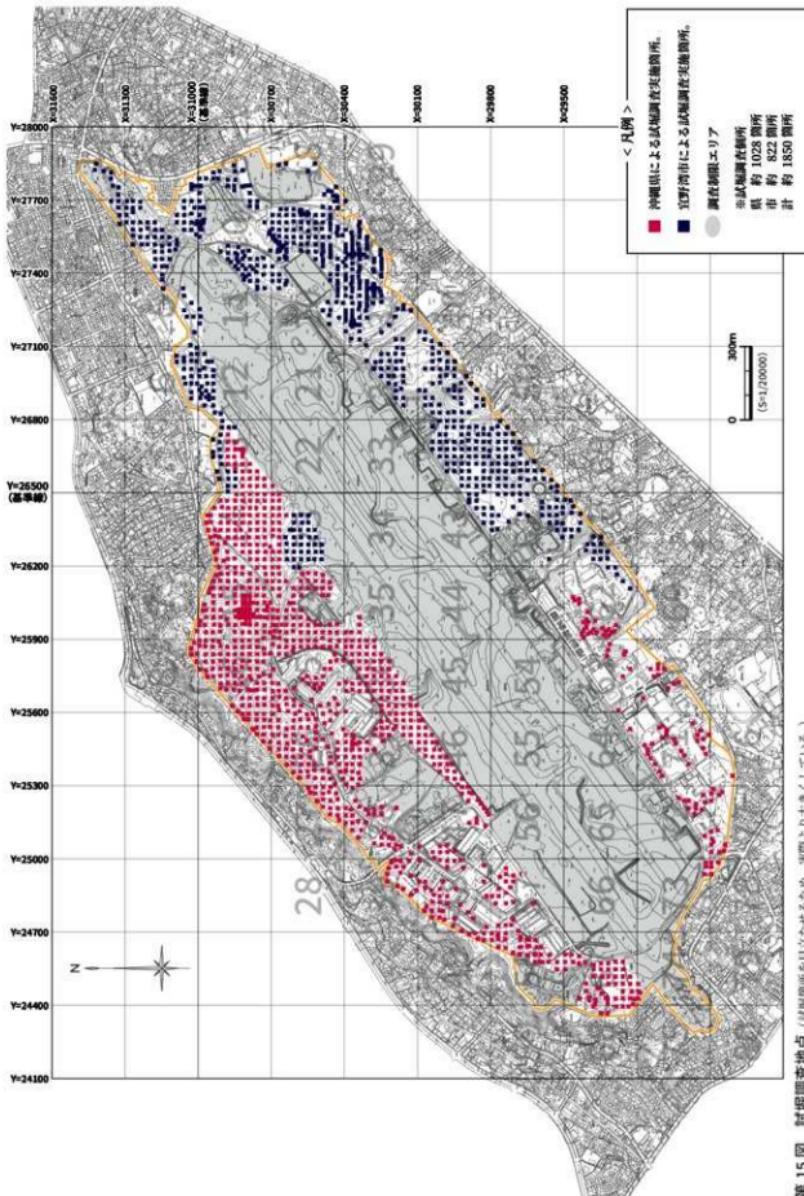
第8表 試掘坑の数量一覧表(年度別)

調査年度	県	市	合計
H11	44		44
H12	72		72
H13	262	317	579
H14	305	272	577
H15	90		90
H16	74		74
H17		74	74
H18	76	43	119
H19	56	26	82
H20	49		49
H21		66	66
H22		24	24
合計	1028	822	1850

第9表 試掘坑の数量一覧表(グリット別)

グリット	県	市	合計
フテ1		8	8
フテ2		5	5
フテ3		5	5
フテ4		57	57
フテ5		11	11
フテ6		18	18
フテ7	1		1
フテ8	5		5
フテ9		21	21
フテ10		49	49
フテ11		12	12
フテ12		25	25
フテ13	25	21	46
フテ14	74	5	79
フテ15	111		111
フテ16	81		81
フテ17	18		18
フテ18		12	12
フテ19		113	113
フテ20		23	23
フテ21			
フテ22	1		1
フテ23	20	34	54
フテ24	66	2	68
フテ25	61		61
フテ26	70		70
フテ27	19		19
フテ28			
フテ29			
フテ30		58	58
フテ31		81	81
フテ32		29	29
フテ33			
フテ34			
フテ35	5		5
フテ36	65		65
フテ37	51		51
フテ38	32		32
フテ39	15		15
フテ40		5	5

グリット	県	市	合計
フテ41		46	46
フテ42		65	65
フテ43		10	10
フテ44			
フテ45			
フテ46		31	31
フテ47		23	23
フテ48		38	38
フテ49		5	5
フテ50			
フテ51		48	48
フテ52		32	32
フテ53			
フテ54			
フテ55			
フテ56			
フテ57		21	21
フテ58		32	32
フテ59			
フテ60			
フテ61		22	22
フテ62		5	30
フテ63		8	8
フテ64		1	1
フテ65			
フテ66			
フテ67		45	45
フテ68		6	6
フテ69			
フテ70		10	10
フテ71		26	26
フテ72		11	11
フテ73		3	3
フテ74		4	4
フテ75			
フテ76		1	1
フテ77		14	14
フテ78		4	4
フテ79			
フテ80			
合計		1028	822
合計			1850



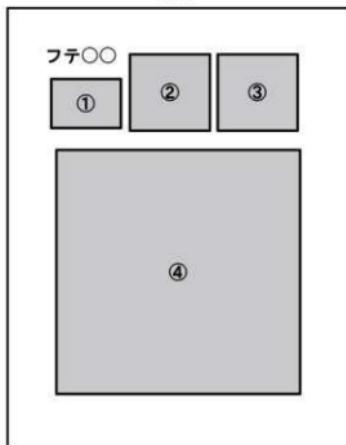
第2節 試掘地点と遺跡範囲

試掘坑の位置と遺跡範囲を詳細に示すために、縮尺 1/2000 の地図を使用した。また、現在の状況と戦前の状況については写真で示した。

さらに、試掘坑を色分けする際には、その試掘坑で一番古い時代の遺物包含層の色で示した。

詳細については凡例のとおりである。

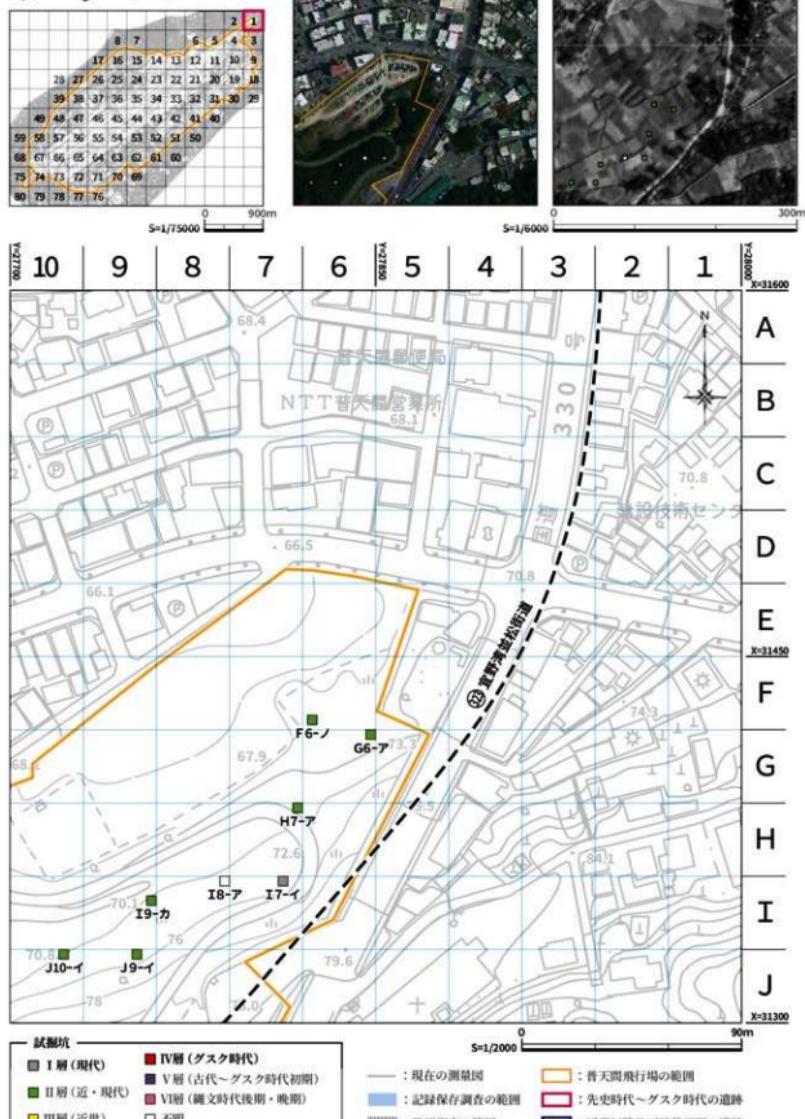
<凡例>



- 普天間飛行場を第Ⅰ区画の「フテ1」～「フテ80」に分割し、各グリッドの情報を1ページにまとめた。
- 1ページの構成は、①第Ⅰ区画の位置を示す見取り図、②現在の写真、③戦前の写真、④試掘箇所と遺跡分布図とした。
- ②・③の写真は、④と同じ範囲とし、縮尺は1/6000とした。
- ④の地図は、試掘坑の位置を詳細に示すために、縮尺を1/2000とした。
- ②の写真は、令和2年度に宜野湾市税務課が株式会社パスコに委託して撮影・作成されたオルソ画像である。試掘坑については、実際よりも大きく図示して目立つようにした。

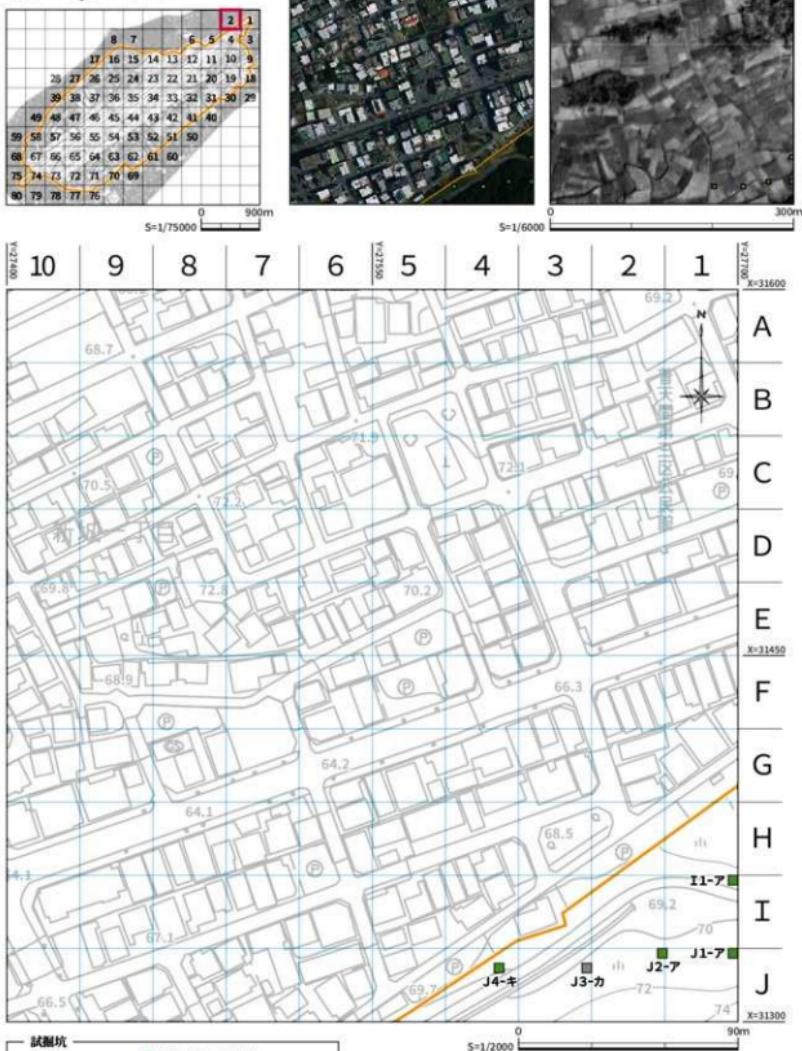
- ③の写真は、昭和20年にアメリカ軍が撮影した写真的デジタルデータ((財)沖縄県公文書館所蔵)をもとに、宜野湾市文化課が作成したオルソ画像である。試掘坑については、実際よりも大きく図示して目立つようにした。
- ④に使用した地図は、平成20年度に宜野湾市都市計画課が作成した地形図の中に、沖縄県立埋蔵文化財センターが測量業者に委託して作成した詳細な地形図を組み込んだ図である。そのため、等高線などが合わずに途切れている部分もある。
- 試掘坑の凡例にある色は、試掘坑で一番古い包含層の時代を示している。
- 試掘坑の名称については、第Ⅰ区画を省略し、第Ⅱ・第Ⅲ区画を使って「D6-ア」のように表記した。
- 試掘坑のほかに、範囲確認調査と記録保存調査の範囲も図示した。

フテ1



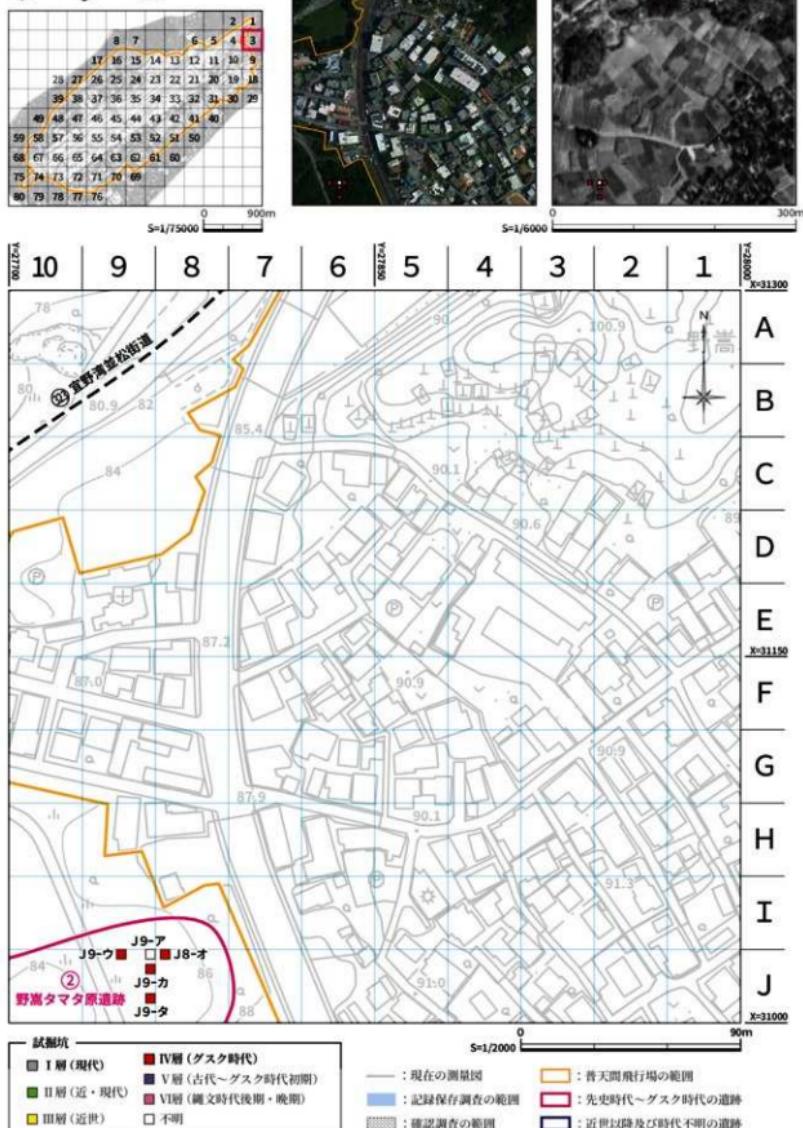
第16図 試掘坑配置図 フテ1

フテ2



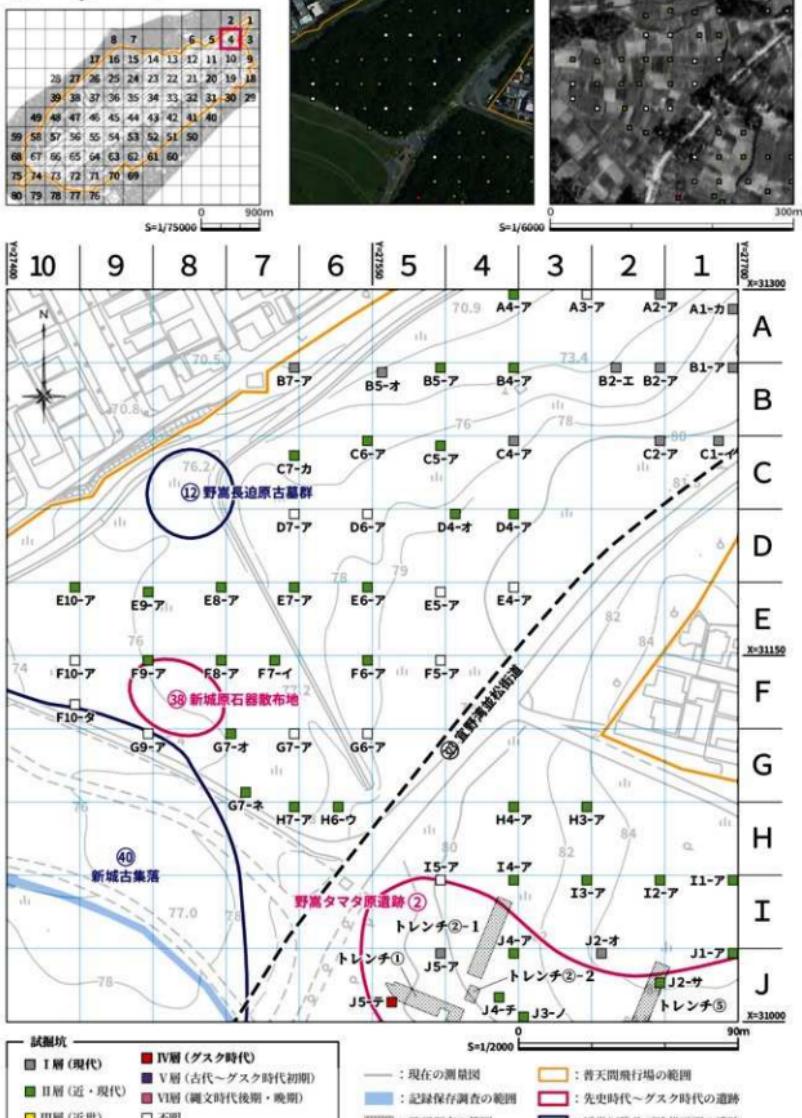
第16図 試掘坑配置図 フテ2

フテ3



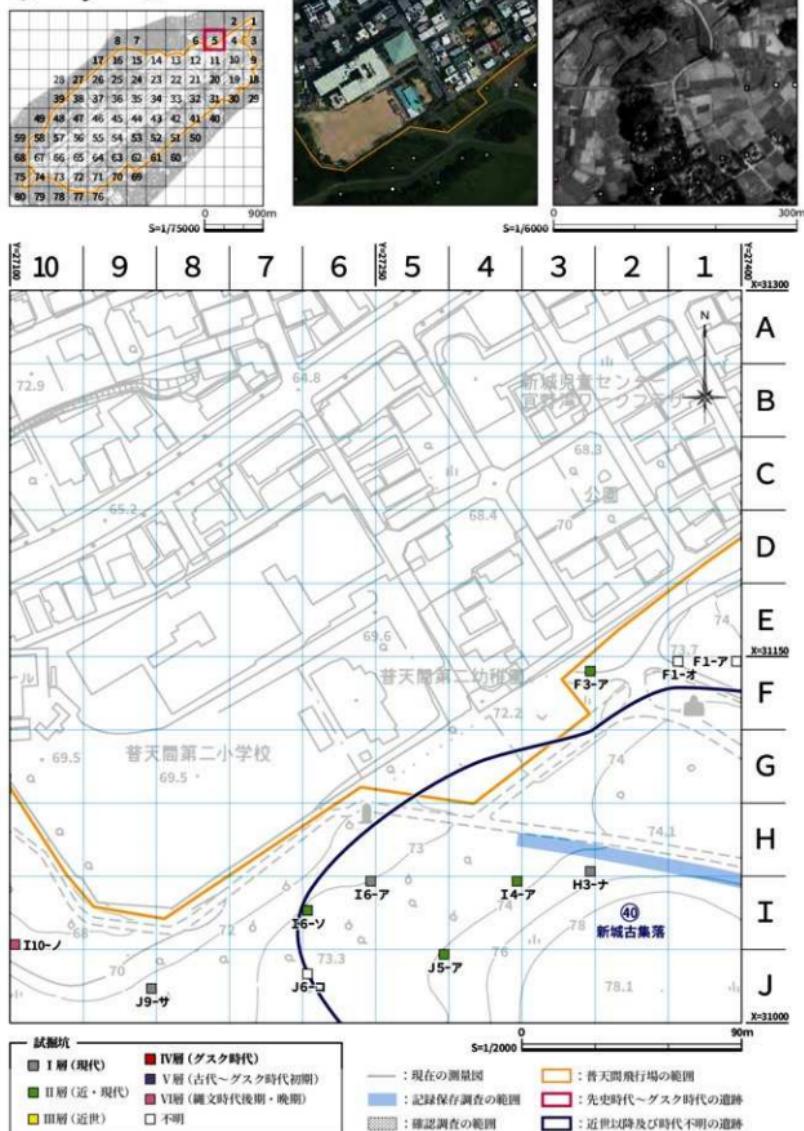
第16図 試掘坑配置図 フテ3

フテ4



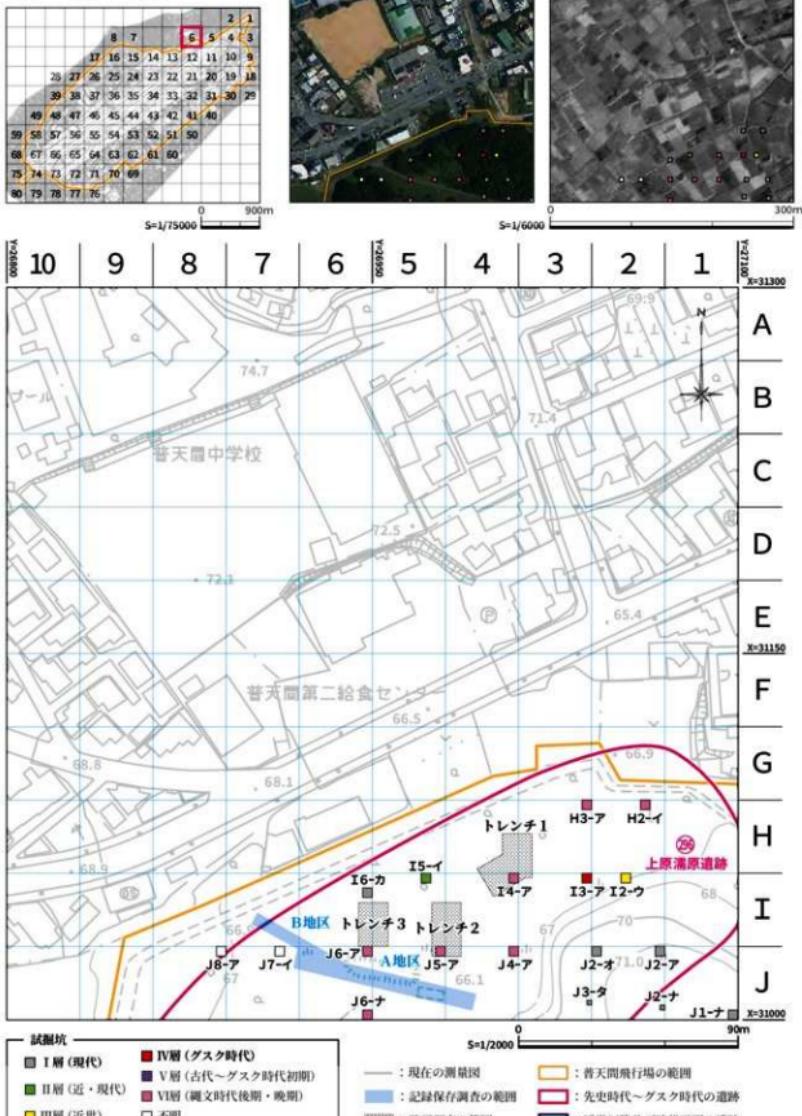
第16図 試掘坑配置図 フテ4

フテ5



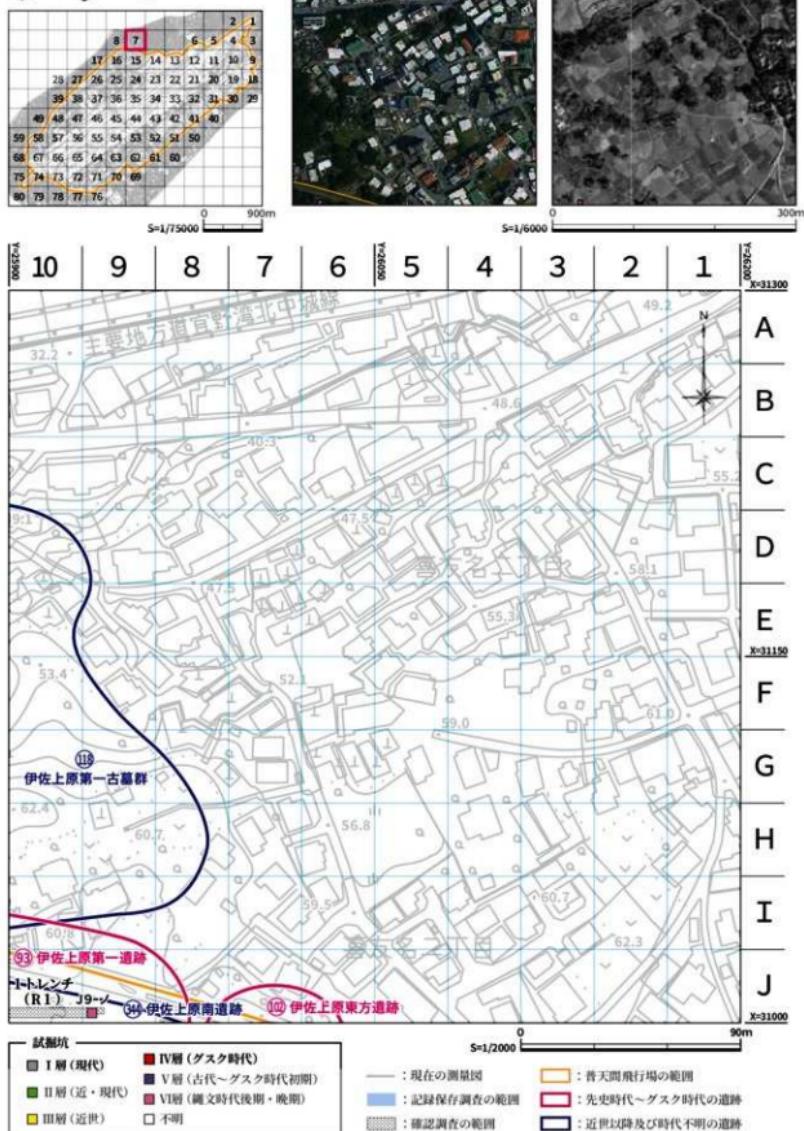
第16図 試掘坑配置図 フテ5

フテ6



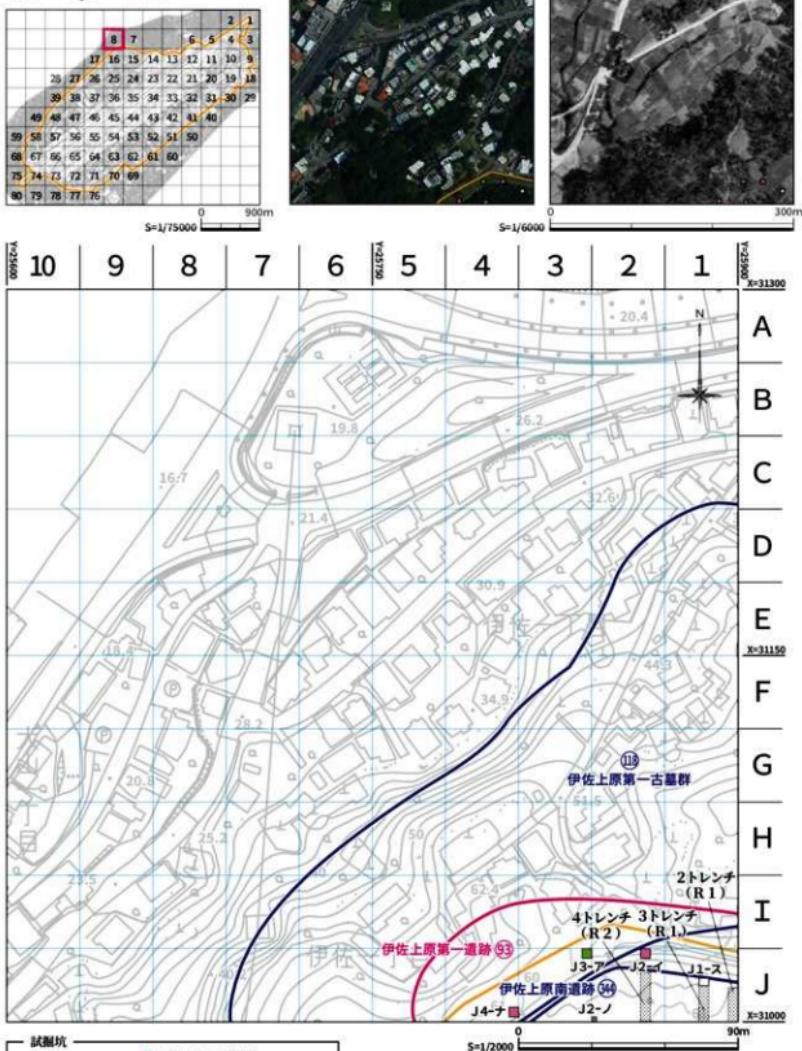
第16図 試掘坑配置図 フテ6

フテ7



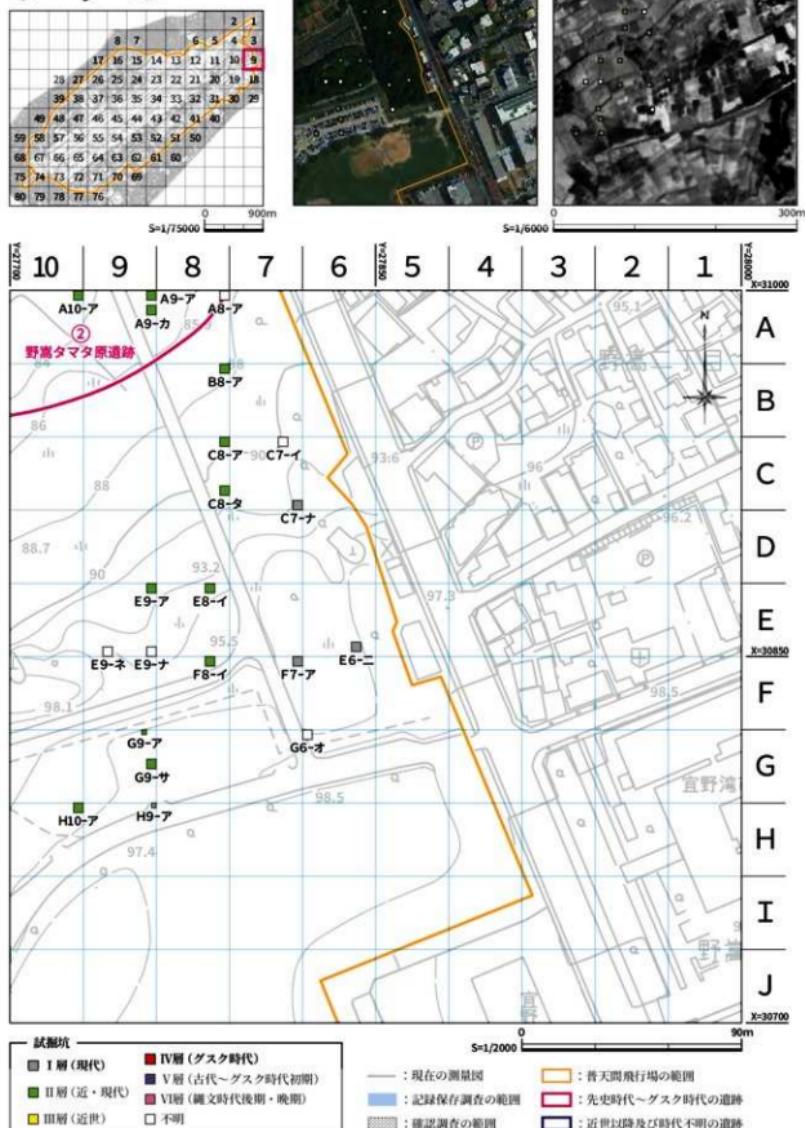
第16図 試掘坑配置図 フテ7

フテ8



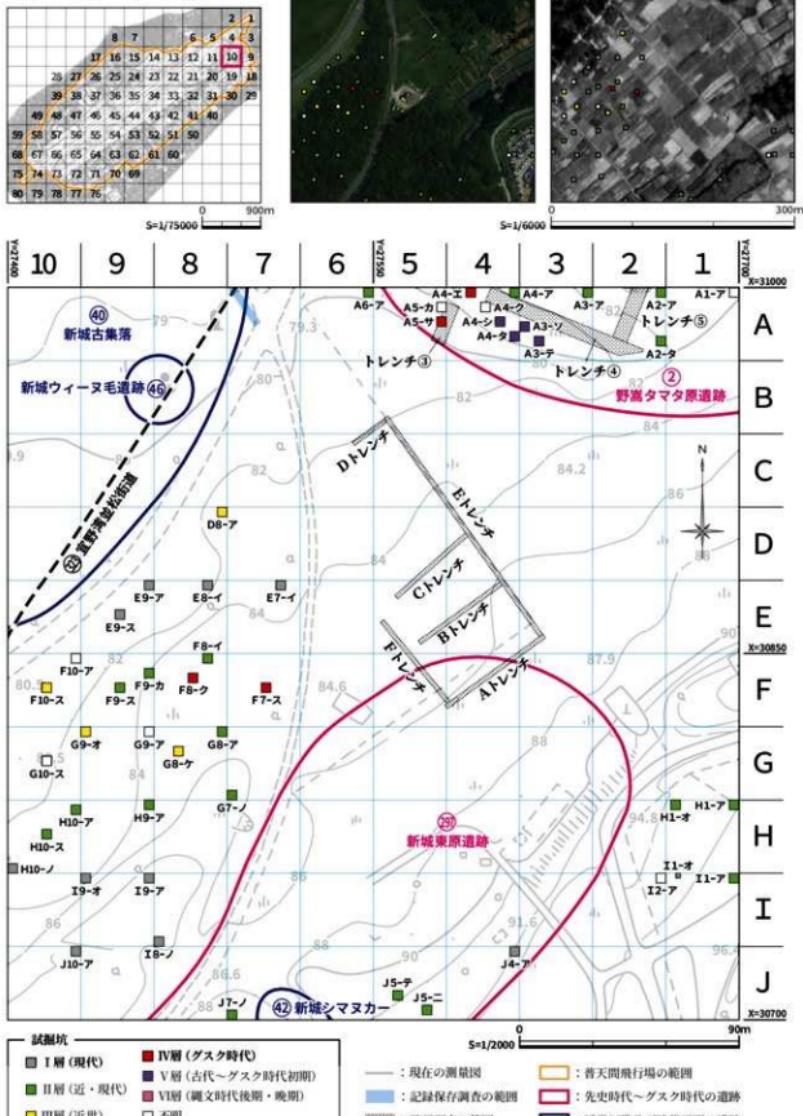
第16図 試掘坑配置図 フテ8

フテ9



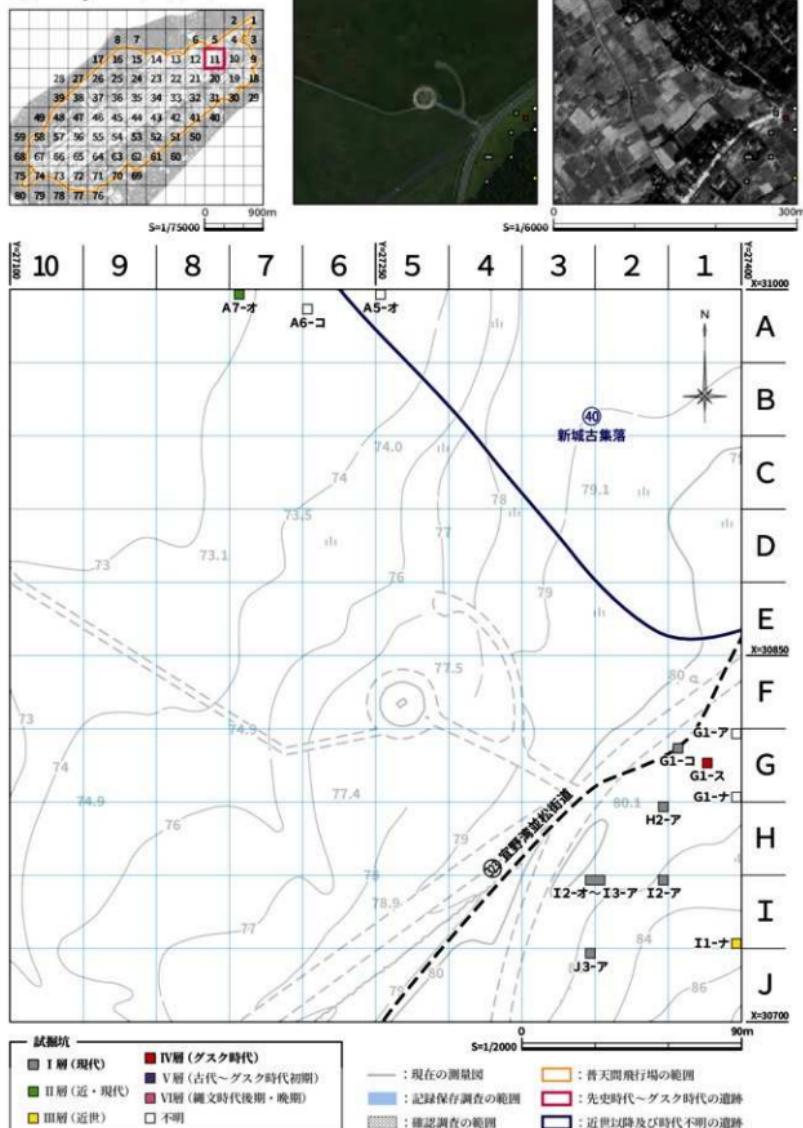
第16図 試掘坑配置図 フテ9

フテ10



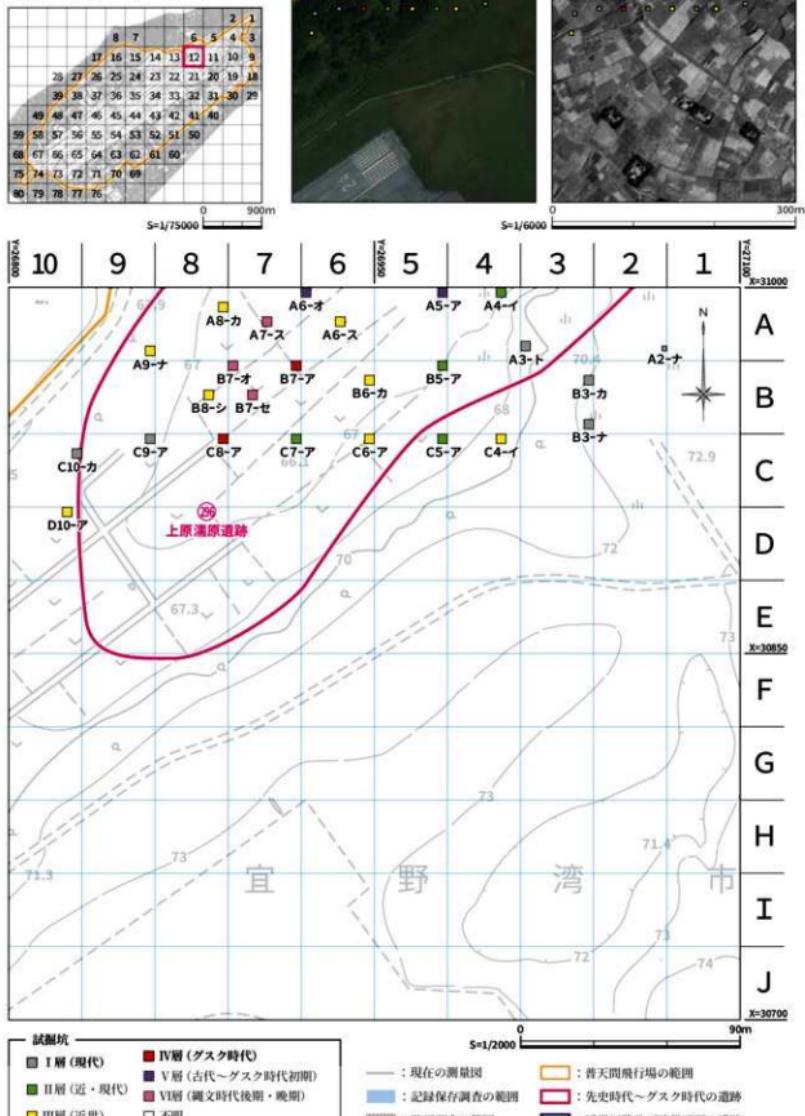
第16図 試掘坑配置図 フテ10

フテ11



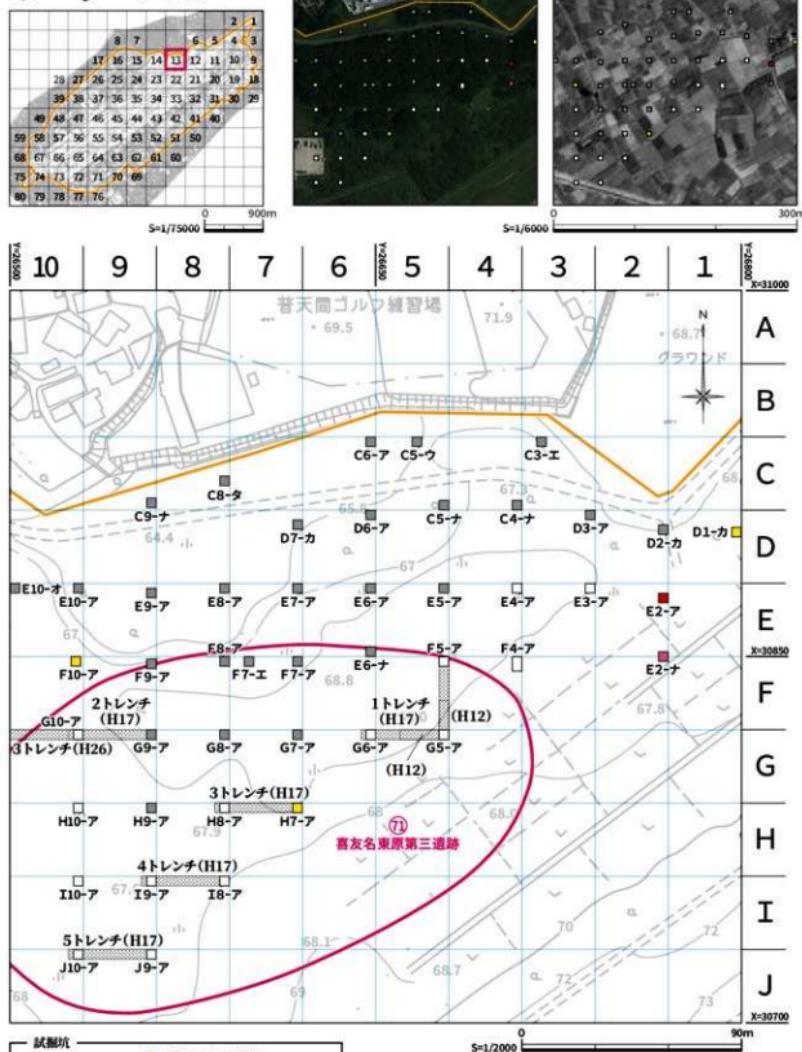
第16図 試掘坑配置図 フテ11

フテ12



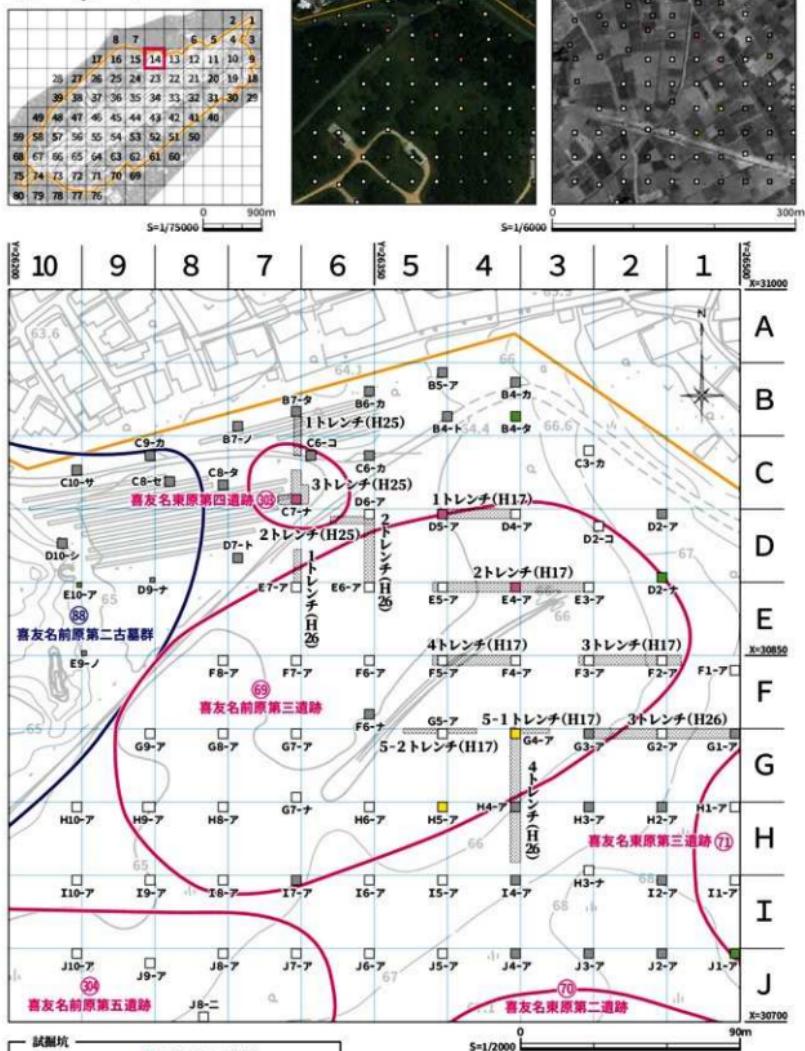
第16図 試掘坑配置図 フテ12

フテ13



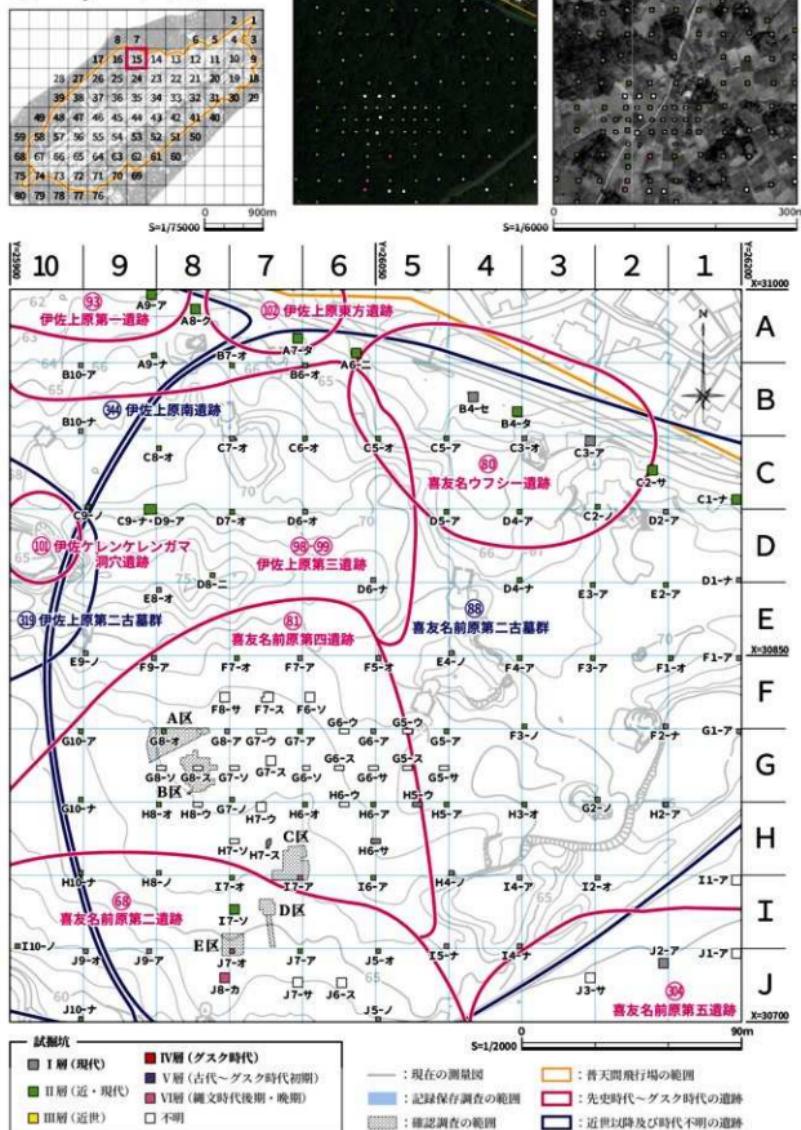
第16図 試掘坑配置図 フル13

フテ14



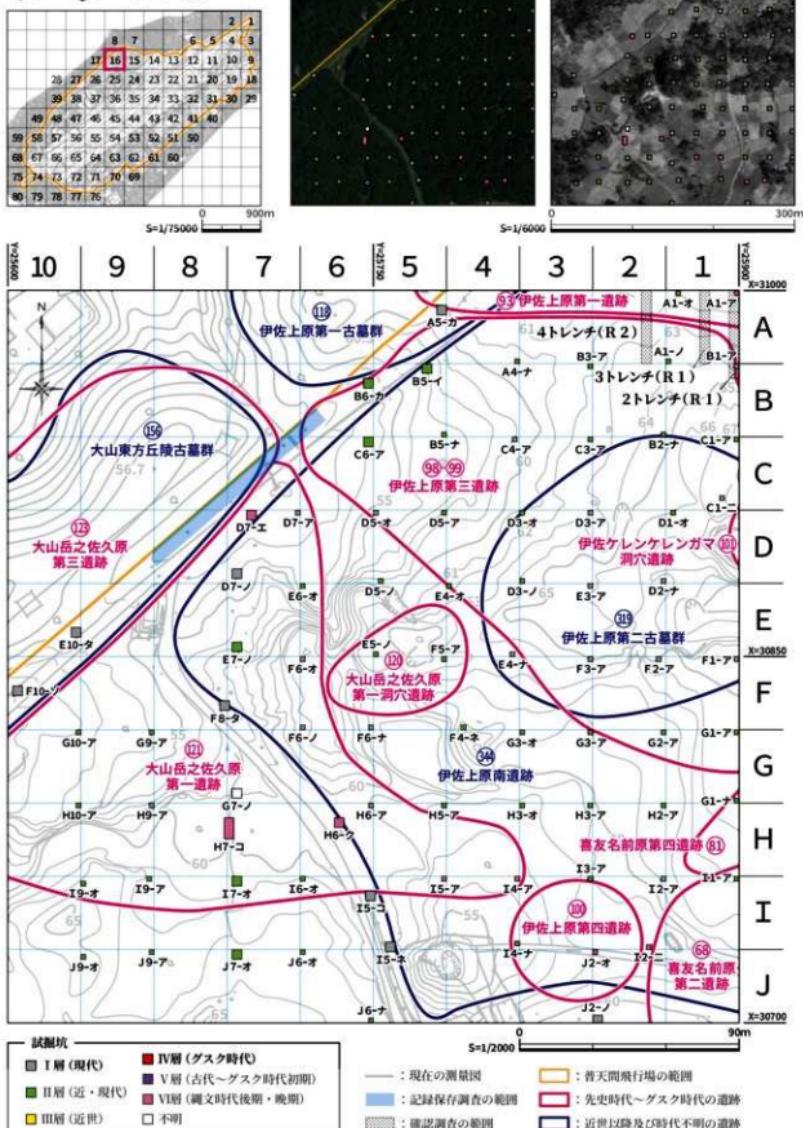
第16図 試掘坑配置図 フテ14

フテ15



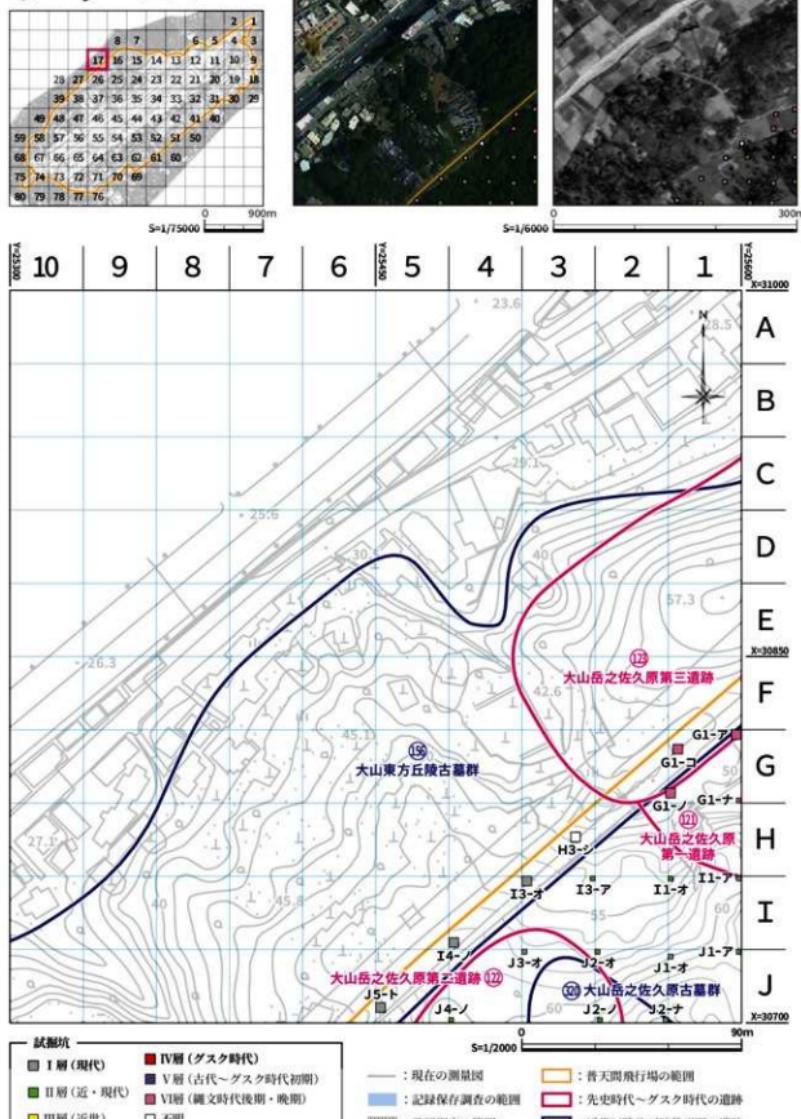
第16図 試掘坑配置図 フテ15

フテ16



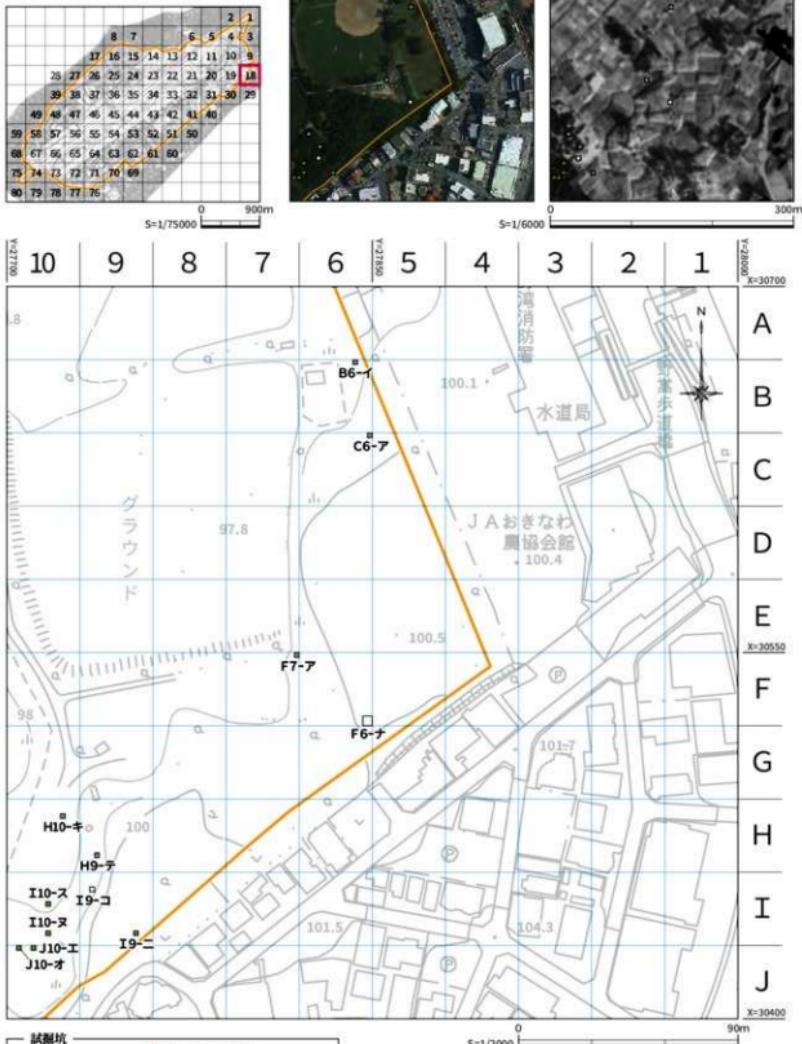
第16図 試掘坑配置図 フテ16

フテ17



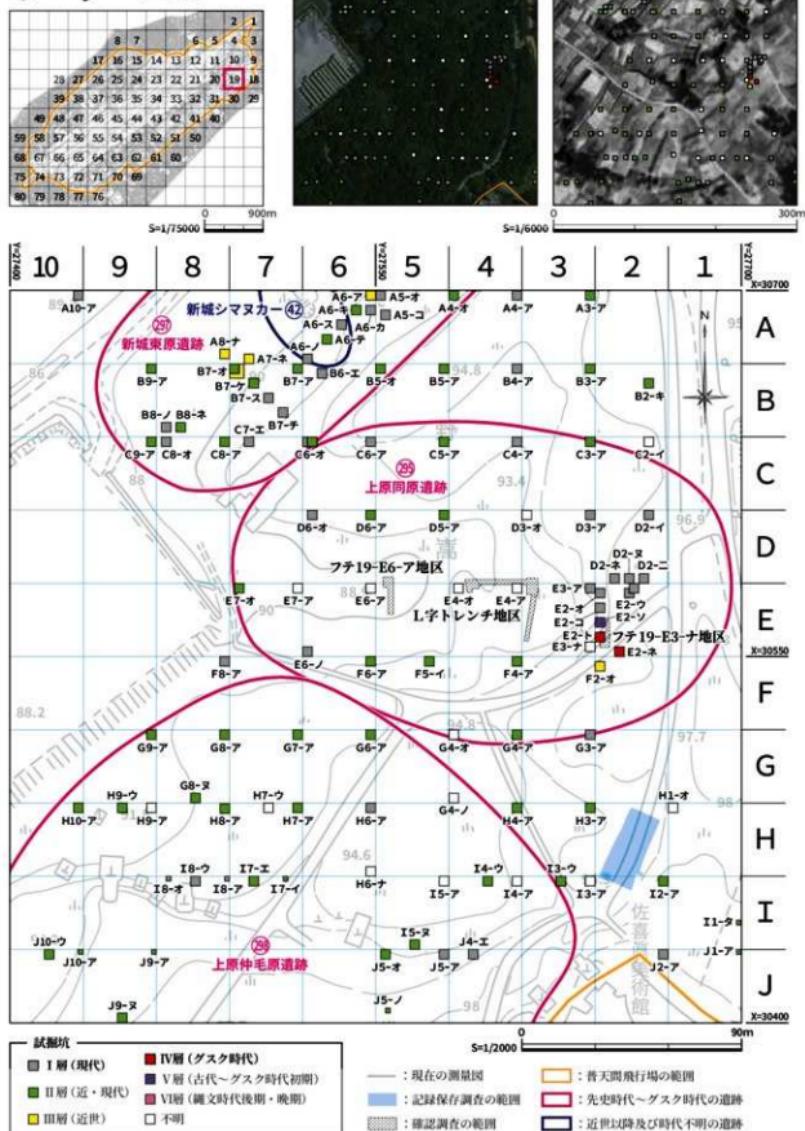
第16図 試掘坑配置図 フテ17

フテ18



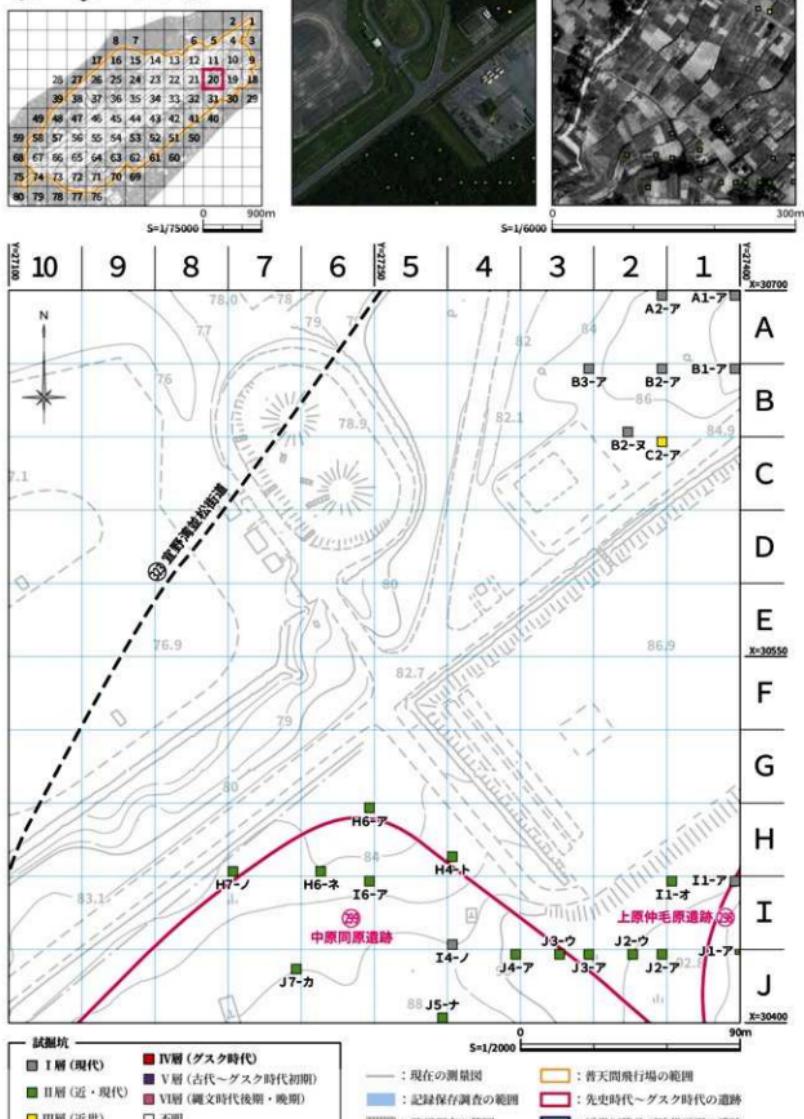
第16図 試掘坑配置図 フテ18

フテ19



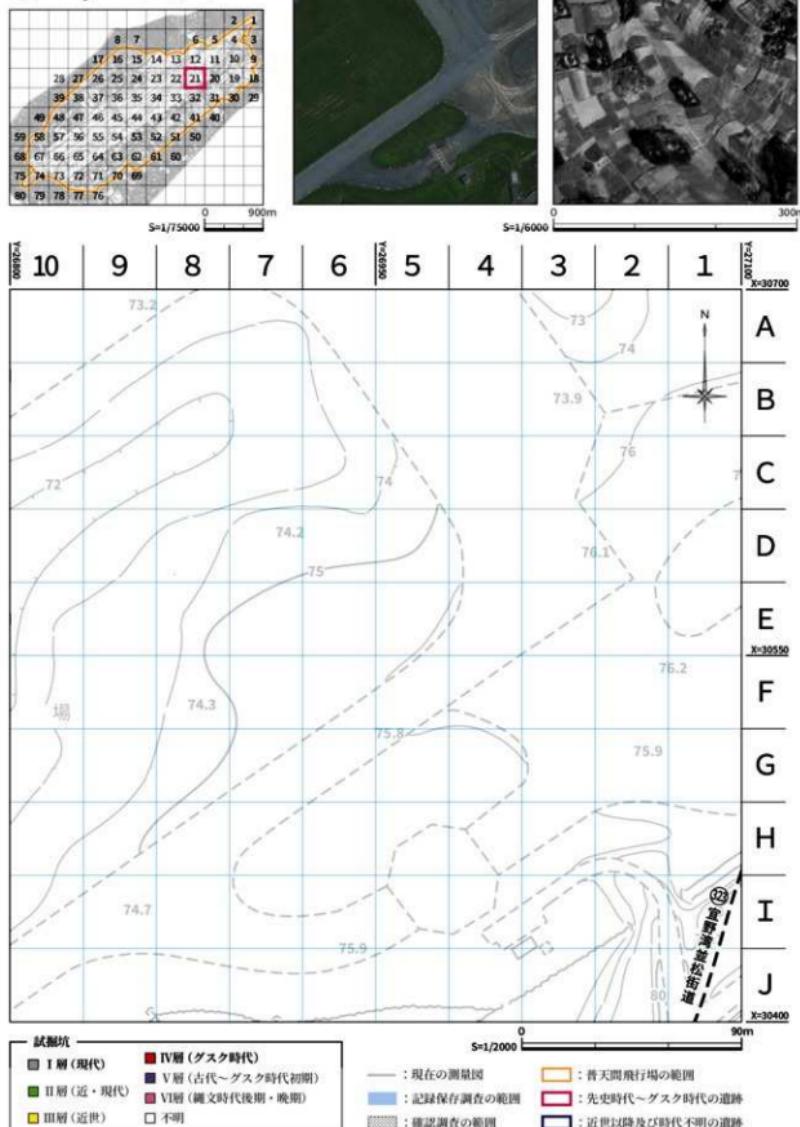
第16図 試掘坑配置図 フテ19

フテ20



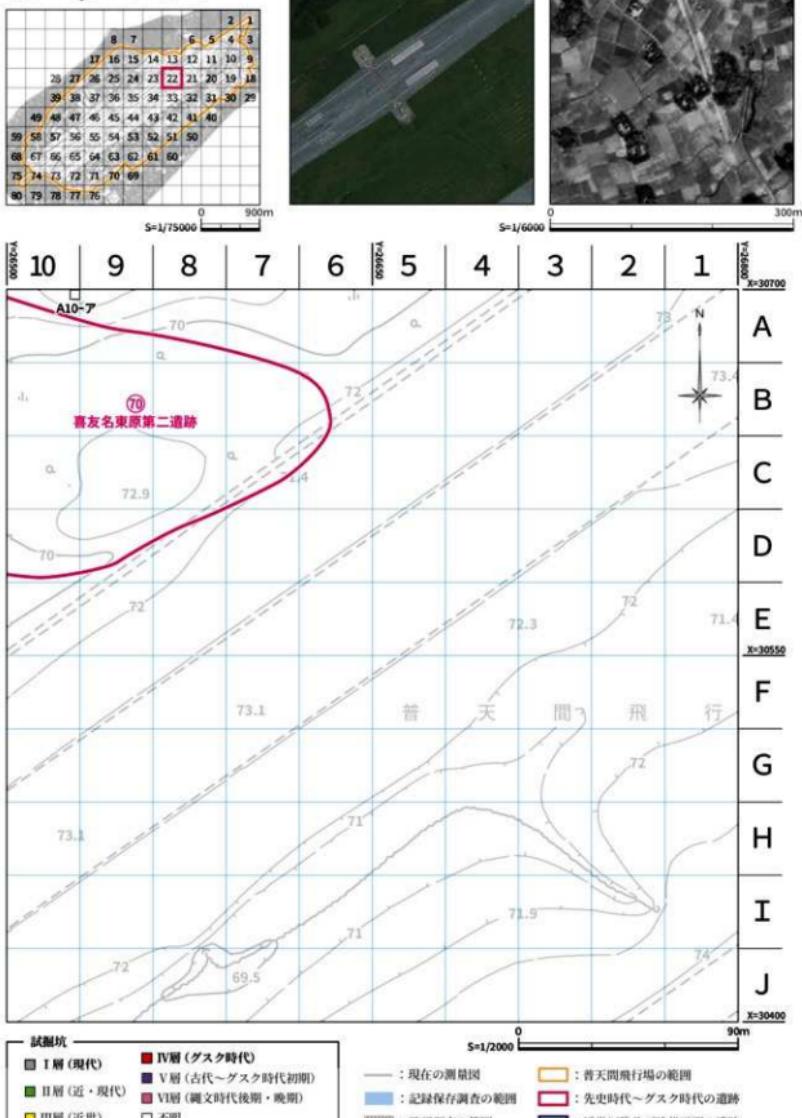
第16図 試掘坑配置図 フテ20

フテ21



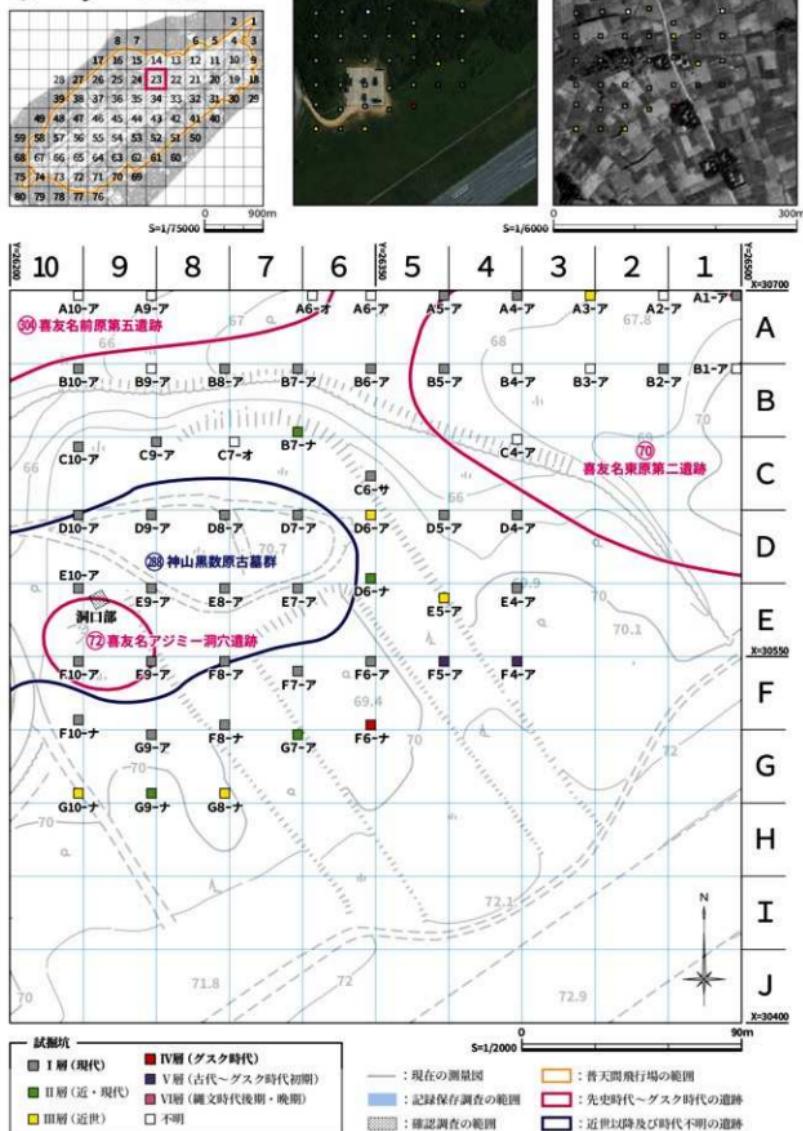
第16図 試掘坑配置図 フテ21

フテ22



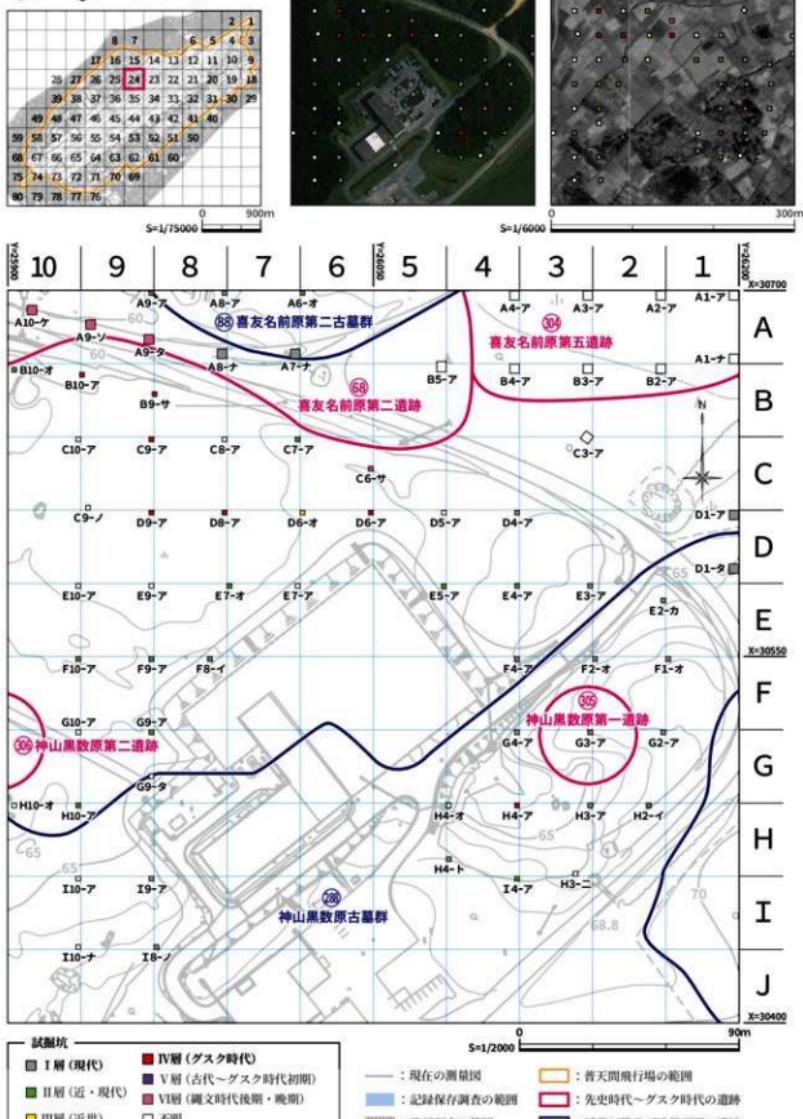
第16図 試掘坑配置図 フテ22

フテ23



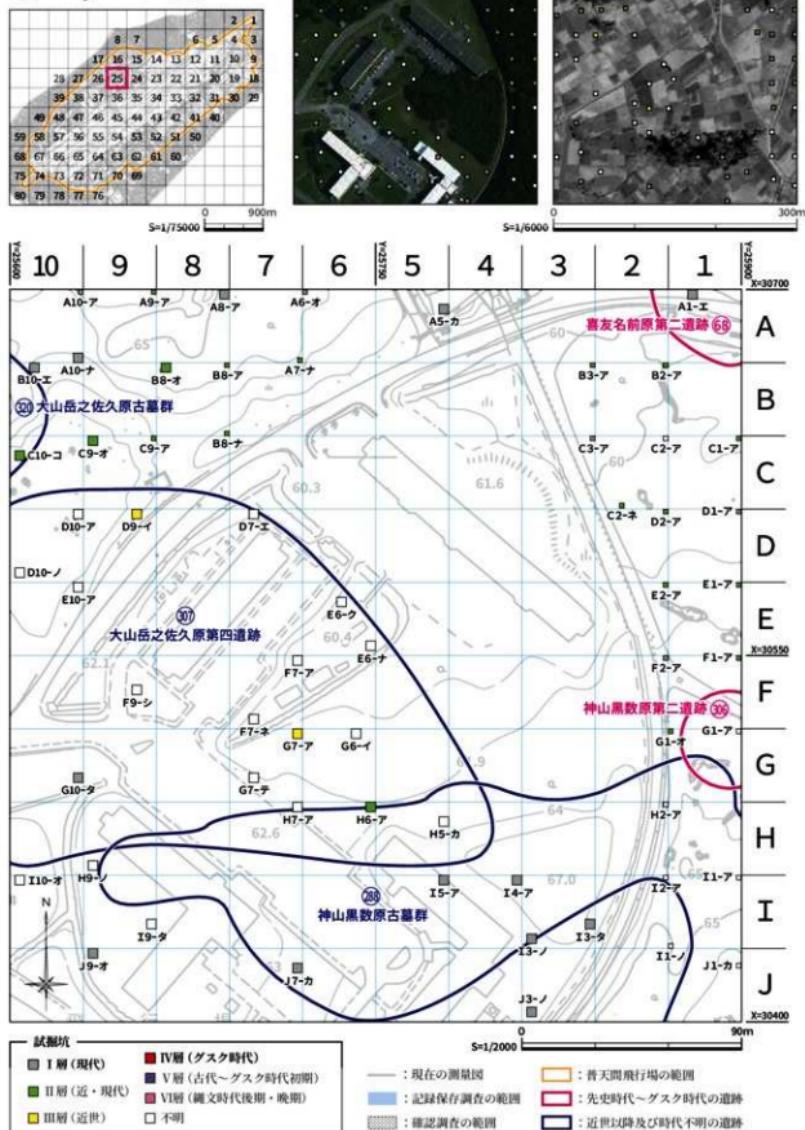
第16図 試掘坑配置図 フテ23

フテ24



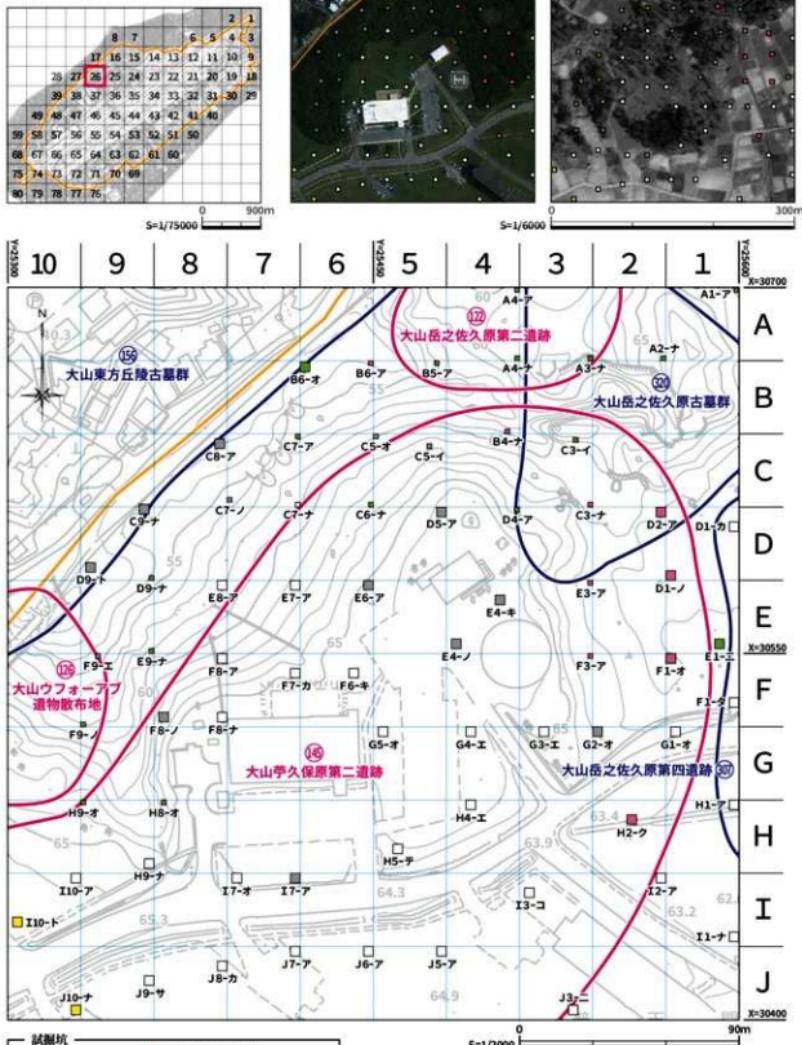
第16図 試掘坑配置図 フテ24

フテ25



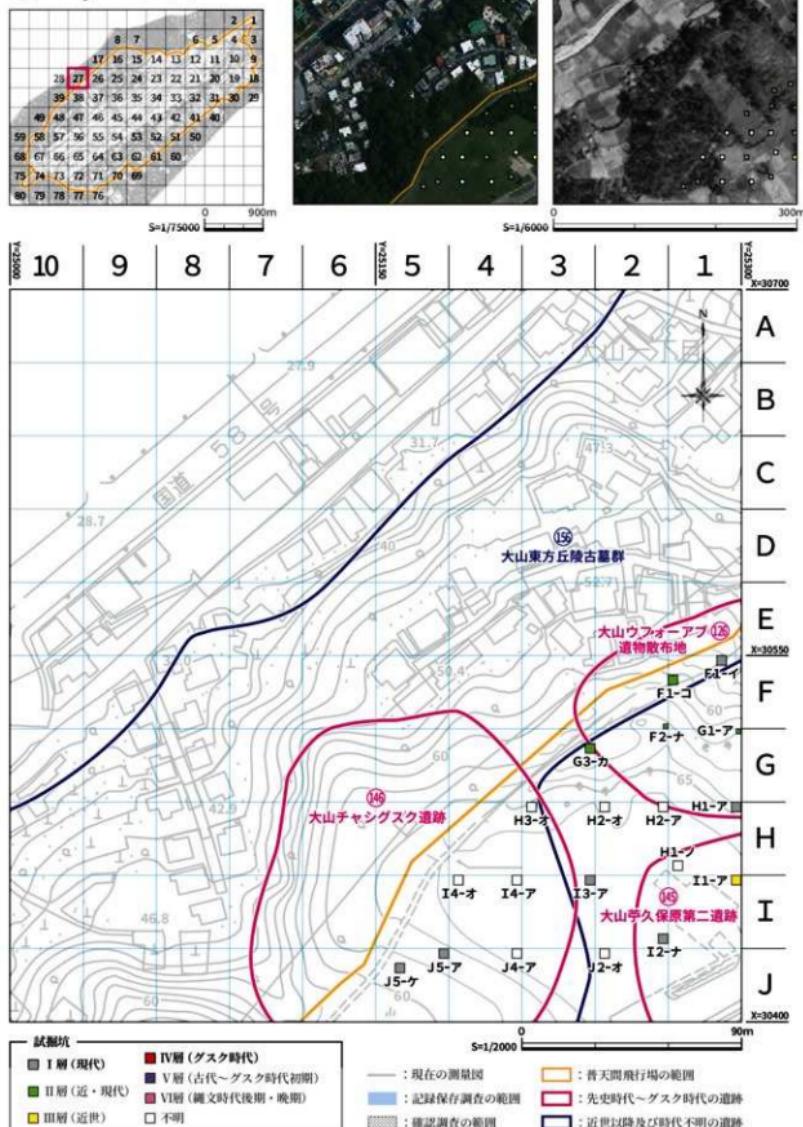
第16図 試掘坑配置図 フテ25

フテ26



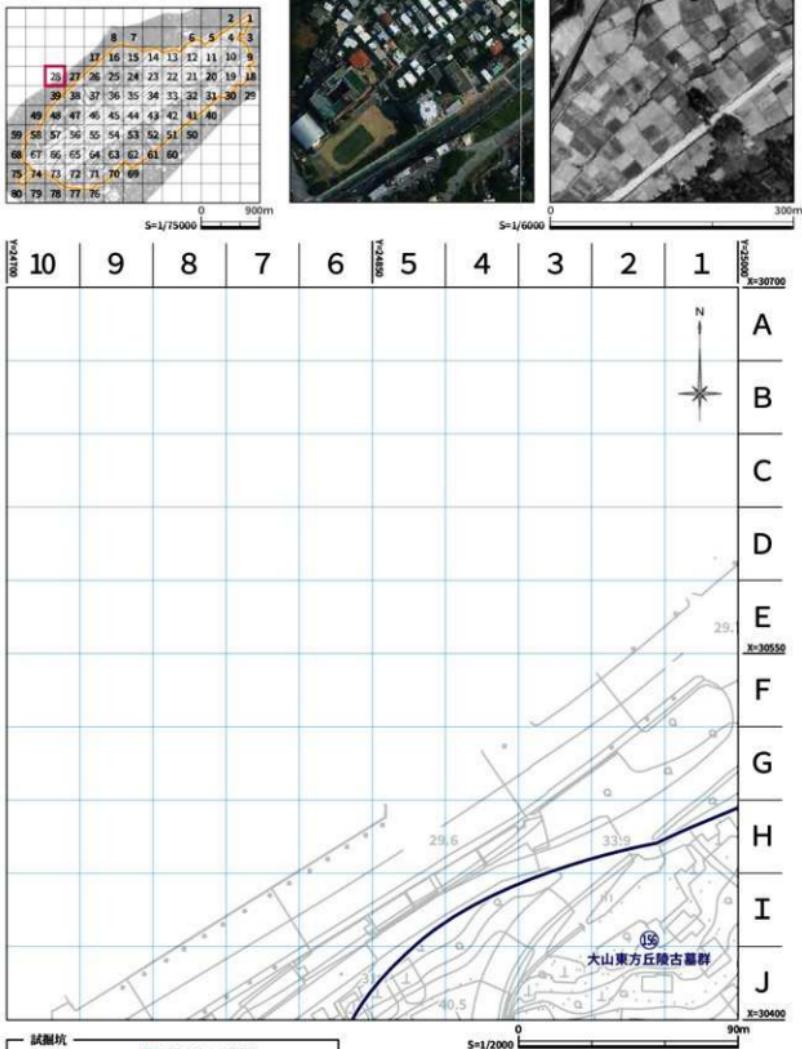
第16図 試掘坑配置図 フテ26

フテ27



第16図 試掘坑配置図 フテ27

フテ28



第16図 試掘坑配置図 フテ28